

ともに創る建設の未来。

建設技術展2025関東 19、20日開催

併催 国土交通省関東地方整備局主催「建設技術フォーラム」

魅力発信と次世代人材の育成へ



開催に寄せて
国土交通省
関東地方整備局長

橋本 雅道

このたび、「建設技術展2025関東」が盛大に開催されます。心よりお祝い申し上げます。また、日頃より国土交通行政に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。関東地方整備局は、首都圏を含む1都8県のインフラ整備および管理を担っており、防災・減災や国土強靱化の推進を通じて、持続可能な経済成長の基盤を支えています。社会資本の整備と適切な維持管理は、その根幹をなす不可欠な取り組みです。当整備局では、「国民の安全・安心の確保」、「持続的な経済成長の実現」、「個性をいかした地域づくりと分散型国土づくり」の三本柱のもと、既存インフラの計画的な維持管理・更新

日刊建設工業新聞社主催の「建設技術展2025関東(C-Xross2025)」が19、20日の2日間、東京・東池袋のサンシャインシティ展示ホールC・D(文化会館ビル2、3階)で開かれる。本展示会は国土交通省関東地方整備局の協力を得て開催する建設技術の見本市で、今年で6回目を迎える。メインテーマは「ともに創る建設の未来」。前回を上回る200超の企業・団体が出展し(210ブース)、最新の技術・工法や製品などを展示する。19日には会場内で関東地

200超の企業・団体が出展

方整備局主催「建設技術フォーラム」が同時に開かれ、最新技術(IoT、ロボット、AIなど)を建設現場に取り入れることを目的にした技術や「i-Construction」「インフラDX」の関連技術などを紹介する。特設ステージでは国土交通省、東京都、埼玉県、千葉県、中日本高速道路会社の幹部らが講演。インフラ整備や都市づくりを展望するとともに、12月に全面施行を控えた改正建設業法に基づく「労務費の基準」制度のポイントを解説する。

最新技術、工法、製品が一堂に

日刊建設工業新聞社
代表取締役社長

高橋 治光



「ともに創る建設の未来。」です。国土交通省関東地方整備局が開く「建設技術フォーラム」の同時開催であり、建設産業の技術力をアピールし、わが国持続可能な発展に欠かせない建設の未来を形づくる上で、貴重機となるよう企画いたしました。会場の200を超えるブースにはさまざまな建設技術が展示されます。また、11月19日に国

建設の未来を形づくるための場に

らも多くの生徒が来場し、会場内の見学ツアーに参加しました。これまでストックしてきた社会資本の維持管理・更新、激甚化・頻発化する自然災害への対応、地球温暖化防止に向けたカーボンニュートラルの実現など、建設技術に対するニーズは多様化、高度化しています。建設業はこうした社会課題の解決に貢献しながら、生産性の向上や働き方改革、担い手の確保・育成に取り組むことが求められています。

ステージプログラム

〈11月19日〉 【ステージA】(展示ホールC、3階) 10:30~ ▷基調講演「国土交通省のインフラDXの取り組み」 ＝廣瀬昌由氏(国土交通省技監) 11:30~ ▷講演「NEXCO中日本における技術推進の取り組み」 ＝村田啓氏(中日本高速道路執行役員技術本部長) 13:30~16:30 ▷国土交通省関東地方整備局主催「建設技術フォーラム 強靱な国土が私たちの暮らしを守る」 ・開会あいさつ＝橋本雅道氏(国土交通省関東地方整備局長) ・基調講演「未来を守る国土の強靱化」＝田中克直氏(関東地方整備局企画部長) ・講演「荒川の流域治水と荒川調節池群の整備について～荒川第二・第三調節池を事例に～」＝米沢拓繁氏(関東地方整備局荒川調節池工事事務所長)	・講演「道路メンテナンスの高度化と自治体支援」＝小川渉氏(関東地方整備局関東道路メンテナンスセンター長) ・講演「上下水道施設の戦略的な維持管理・更新に向けた取組み」＝三好健次氏(関東地方整備局河川部上下水道調整官) ・講演「道路ネットワークの機能強化」＝小澤知幸氏(関東地方整備局道路部道路企画官) ・講演「国営東京臨海広域防災公園の役割～首都直下地震における防災拠点など～」＝辻野恒一氏(関東地方整備局国営昭和記念公園事務所長) ・講演「羽田空港の防災・減災」＝温品清司氏(関東地方整備局東京空港整備事務所長) ・研究発表「広域国営公園の植生・施設管理業務支援を目的とした計測・判定プロセスの自動化」＝桑原祐史氏(茨城大学大学院教授) ・研究発表「不要な植物のみを検出・識別して除去可能な選択的除草ロボットシステム開発の技術研究」＝中村明生氏(東京電機大学教授)	【ステージB】(展示ホールD、2階) 10:30~ ▷パネルディスカッション「現場経験のある女性技術者が語る～建設産業の女性活躍・定着促進に向けた新実行計画の取組みへの期待～」＝建設産業女性定着支援ネットワーク 11:40~ ▷建設産業を目指す学生のための就職セミナー＝コンキヤリ 13:10~ ▷出展者プレゼンテーション＝日本工営 13:50~ ▷出展者プレゼンテーション＝パシフィックコンサルタンツ 14:30~ ▷出展者プレゼンテーション＝日本物理探検 15:10~ ▷出展者プレゼンテーション＝韓水ナテック 15:50~	▷出展者プレゼンテーション＝レフィクシア 《11月20日》 【ステージA】(展示ホールC、3階) 10:30~ ▷講演「首都東京の都市づくり」＝三宮隆氏(東京都都市整備局理事) 11:30~ ▷講演「改正建設業法に基づく『労務費の基準』制度について」＝石井信氏(国土交通省不動産・建設経済局建設振興課長補佐) 13:00~ ▷プレゼンテーション「VISION NEXT 2025 未来を創る建設コンサルタントたち」＝建設コンサルタント協会関東支部 14:10~ ▷講演「埼玉県の未来を創る県土づくり～日本一暮らしやすい埼玉を目指して～」＝吉澤隆氏(埼玉県県土整備部長)	15:00~ ▷講演「WISNET2050と千葉県」＝四童子隆氏(千葉県県土整備部長) 【ステージB】(展示ホールD、2階) 10:30~ ▷トークショー「教育アニメ映画『未来補完計画』プロジェクト」＝クリエイティブ・ラボ 11:10~ ▷出展者プレゼンテーション＝リフリース工業会 11:50~ ▷出展者プレゼンテーション＝人・夢・技術グループ 13:00~ ▷学生向けトークイベント「未来をつくる建設産業って、おもしろい!」＝マイナビ 14:40~ ▷パネルディスカッション「未来をつくる私たちのマネジメント」＝日本コンストラクション・マネジメント協会
---	---	---	--	--

大豊建設 D-1 大豊建設の土木・建築技術で挑む持続可能なまちづくり 大豊建設は、「信頼に応える、確かな技術」をスローガンに、土木・建築の両分野における先進的かつ実用的な技術を提供しています。土木部門では、泥土加圧シールド工法による掘進作業のVR体験を通じて、地下インフラ整備のダイナミズムを体感いただきます。また、ニューマチックケーソン工法の特長や、土木学会技術賞を受賞したプロジェクトの実績をパネルでご紹介します。建築部門では、持続可能な社会の実現に向けて注力している木質構造建築や、BIMによる施工プロセスの可視化技術など、先進的な取り組みを映像とパネルで展示しています。私たちの技術が未来のまちづくりにどう貢献できるのか、ぜひ会場でご体感ください。	ニュージェック D-2 トンネル点検における3D可視化による業務の効率化 トンネルの点検業務において、走行型計測車両(MIMM)で取得したデータを3次元可視化。取得した点群データに壁面画像を合わせることで位置の特定が容易になり、変状展開図の作成にAIを活用することにより現地点検の効率化を実現します。全ての点検結果をソフトウェア内で一元管理するモデルを構築しました。確認したい点検結果記録をクリックすると、瞬時に記録表が開き、点検画像を含め、詳細内容を確認することがができます。この3次元可視化モデルの活用により、生産性効率比率20%を達成し、中部地整DX大賞敢闘賞を受賞しました。 建設DX：国土強靱化、防災・減災：維持・更新、インフラメンテナンス	ケミカルグラウト D-3 エコタイトーS 本設基礎に適用できる高圧噴射攪拌工法(GBRC 性能証明 第14-30号 改1) エコタイトーS工法は日本建築センター/ベターリビングの「2018年度版建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針-セメント系固化材を用いた深層・浅層混合処理工法-」の「資料編 第2章 深層混合処理工法の品質管理指針 2.4 改良体強度の変動係数の設定方法」に示されている方法に準拠し求められた分析結果が目標性能を満足することを確認した工法です。
ICECRETE協会 D-3 地球環境に優しい新地盤凍結工法 地盤凍結工法は、地盤内の地下水を凍結させ、工事完了後は解凍することにより地盤内に残留物が無い、他の地盤改良工法と異なる「地球に優しい」工法と言えます。 この地盤凍結工法を、地球温暖化防止推進の観点から、一次冷媒のノンフロンの転換、温室効果ガス排出量の削減を行い「さらに地球環境に優しい」ICECRETE工法を確立致しました。	ジオスター D-4A 道路やトンネル、鉄道、ダムに橋梁。陸で、地中で、海岸で、社会の足元を支えているのが「GEOWARE」、私たちジオスターが開発するコンクリート製品です。 建設現場でコンクリートを打設する従来の工法ではなく、工場パーツをつくり現場で組み立てた「プレキャスト工法」を時代に先駆けて取り入れ、マーケットを牽引してきました。 老朽化するインフラ 迫り来る自然災害。国土強靱化が叫ばれる一方、土木建設業界の人手不足は逼迫している。そんな、業界の課題は日本の課題に、プレキャストという一手を。あらゆる現場に合わせた型をつくる技術力や、型にハマらない柔軟な発想で、私たちは、インフラの新しいつくり方をつくる。未来へとずっと続いていく安心をかたちにするために。	シェル ルブリカンツ ジャパン D-4B 環境配慮型潤滑油～生分解性オイルとカーボンニュートラル製品 当社は、総合エネルギー企業 Shell(シェル)グループの一員として、Shellの潤滑油・グリース製品の研究開発・製造・販売事業を行っております。 Shellの提案する環境配慮型潤滑油をご紹介します。 2種類の環境配慮型潤滑油、一つは高性能な生分解性潤滑油のシェルパノリンシリーズ、もう一つはシェルのカーボンニュートラル製品群です。
JIPテクノサイエンス D-4C 専門技術力と経験で未来を創造するプロフェッショナルカンパニー 最先端ICT、IoT、数値シミュレーション技術を活用し、橋梁設計・鋼橋製作から構造解析、維持管理まで、社会インフラのライフサイクル全体を高度に支援します。 橋梁分野は耐震設計システムJT-KOHKAや、設計システムと連携したBIM/CIMモデリングシステムを通じてICT化を推進しています。構造解析分野では、非線形解析や動的解析などの高度なFEM解析技術を駆使し、電力、鉄道、上下水道、橋梁、地盤構造物など多様なインフラ分野に対応しています。 維持管理分野では点検支援、データベース化、中長期シミュレーションに加え、道路分野のアセットマネジメントシステムで国内トップシェアの技術力を有しています。	野原グループ D-4D 建設現場の新しい常識。Matterportが変える現場管理 現場訪問の回数を劇的に減らし、業務を効率化し、移動コストを削減したいとお考えではありませんか？ Matterportのデジタルツイン技術を使えば、オフィスにいながらにして現場のあらゆる状況を3Dで正確に把握できます。遠方の現場にもわざわざ出向く必要がなくなり、移動にかかる時間や費用を大幅にカット。複数現場の進捗状況を効率的に管理できます。 ブースでは3DSキャナ実機展示と、実際にどのようにコスト削減を実現できるか、具体的な事例を交えてご紹介します。建設・土木業界における働き方改革と生産性向上を実現する、革新的なソリューションをぜひ体験してください。	ヒロセグループ D-5 ヒロセグループ総合力で最適提案 ヒロセグループは「私たちは 鍛えぬいた現場力と信頼される技術で 豊かな暮らしを支え続けます」を経営理念に掲げる、重仮設事業や補強土工事業をはじめ、地下工事やタワークレーン事業など、幅広く社会基盤の構築を支える専門工事会社グループです。 ヒロセグループでは、グループ各社がそれぞれの分野で培ってきた各種専門工事の現場力と技術力を集結し、その総合力で現場の課題に合わせた最適な提案を行います。
旭イノベックス D-6 重要な社会基盤であるインフラ整備に貢献 旭イノベックスは1952年の創業以来、公共事業である水門、橋梁、水管橋、鋼管、各種鋼構造物の設計、製造、据付を行っています。特に、異常気象や自然災害による洪水や高潮、津波などから人を守り無人無動力で自動開閉する「オートゲート」を開発し、全国で3300門を超える施工実績を有しております。 この技術は世界に誇れる日本防犯技術として高く評価されています。私たちは、「旭」の技術を形にし、社会資本整備を通して国民の貴重な生命と財産を守る社会活動に貢献しております。 また、長年培った金属加工を主軸に、進化する技術を取り入れ、守るべきものを伝承し、世界が抱える多くの困難解決に挑戦しつづけてまいります。	大日本土木 D-7 コテブリーコンクリート上面を精度よく仕上げるシステム 本技術は、コンクリート打設時の仕上げ高さを自動追尾トータルステーションとスマートグラスにより、作業員が直接確認及び調整できるシステムです。360度プリズムをコテまたはトンボに設置し、自動追尾トータルステーションで計測することにより、リアルタイムで高さ計測をします。 計測端末やスマートグラスで設計値との差分を見ながら作業することで、リアルタイムに設計との差が数値で分かるため、品質及び施工性が向上します。	西松建設 D-8 山岳トンネルの無人化・自動化施工技術、現場の通信環境構築技術 i-Construction2.0を意識し、建設現場のオートメーション化実現に向けての以下の取組みを紹介します。 ①Tunnel-RemOS：山岳トンネル施工に使用する各機械・設備の無人化(遠隔操作)・自動化技術を組み合わせて構築される遠隔施工システム ②建設重機の超遠隔操作への次世代通信技術の適用：低遅延、高精細、多数接続を備える超遠隔操作技術確立を目指した取組み ③山岳トンネルデジタルツインプラットフォーム：トンネル建設現場全体の現在状況をリアルタイムに仮想空間上に再現 ④PicoNect：通信環境の悪い建設現場においても、安定した無線Wi-Fi環境を必要最小限のネットワーク設備で構築

(7) 2025年(令和7年) 11月14日(金曜日)			日刊 建 設 工 業 新 聞			(第3種郵便物認可)		
C-XROSS 2025 Construction Xross 2025								
シーティーエス			三井住友建設			鹿島建設		
現場業務支援サービス サイトアシストパッケージ			A I搭載ラクカメラ、ワンマンレベル測量システム			D-10		
サイトアシストパッケージは、「現場情報共有プラットフォーム サイトアシストダッシュボード」、「現場情報関連コンテンツ」、「多機能ディスプレイ・多機能モバイル」の三つの構成からなり、建設現場で扱う複数のデータや情報を統合し素早く共有することにより、遠隔からの業務支援や業務分担を効率的に実施する為の環境を提供しています。			「A I搭載ラクカメラ」はA I機能を搭載しアップデートされた最新のラクカメラです。ワンタッチで鉄筋を抽出することができ、正確性の向上と作業量の削減を実現しました。最新の技術である「ワンマンレベル測量システム」は従来2人1組で行っていた測量作業を、デジタルレベルの遠隔操作技術により、1人での作業を可能にし省人化を実現しました。			気候変動に伴い頻発・激甚化する水害・土砂災害等に対し、ハード対策の加速とともに、流域全体で水災害対策が推進されています。鹿島は、建築・土木の両分野において、防災・減災が主流となる社会の実現に向けた技術をご提案します。 【展示技術】①1000年先を見据えた森林維持・管理：Forest Asset、②スマート農業による棚田保全、③雨水貯留・浸透型緑化システム、④水災害トータルエンジニアリングサービス、⑤成瀬ダムの建設：A 4CSEL・低炭素型コンクリートE C Mコンクリート、⑥立体音響スピーカー：OPSODISI		
建設技術研究所			PANWALL工法協会			日特建設		
安全・安心への、たゆまぬ挑戦			省人化・省力化を実現する地山補強土工PANWALL工法			D-14		
人々の暮らしに想いを馳せ、技術の力を発揮することが私たちの使命です。安全なインフラ整備で社会を支え、安心して暮らせるように。道路や橋を人々が行き交い、豊かに発展できるように。自然環境とも調和し、潤いのある生活が広がるように。 私たちは日本で最初の建設コンサルタントとして、80年にわたってこの想いのもと、歩んできました。そしてこれからも、グローバルインフラソリューショングループとして飛躍することを目指し、高い技術とあふれる英知で、安心して暮らせる明るい社会を創り続けます。			「PANWALL工法」は、表面工にプレキャストコンクリート板を用いた急勾配化(垂直～5分)が可能な地山補強土工法です。小型機械での施工や「逆巻」「順巻」施工の応用により現道交通を確保しながらの谷側拡幅工事や災害復旧などに活用できます。 在来工法では困難であった高速道路の拡幅、河川護岸新設・改修、既設擁壁の補強、土留め等においても効果を発揮する工法で全国1400件以上、面積40万㎡以上の実績を有します。 「土木学会技術評価」技術推進ライブラリー№14に掲載され、国交省NETIS登録番号CB-170019-V E及びC G-200016-Aを取得する信頼できる工法です。			日特建設は、1947年(昭和22年)、ダムの基礎処理を創業工種として始まり80年近くにわたり、環境防災、維持補修、都市再生分野の専門工事に特化した地質に強い施工会社として評価をいただいております。 昨今、日本では地震や台風・豪雨などによる甚大な災害が頻発しており、建設業界には国土強靱化、および減災化への対応が求められています。また、地球規模で見ても喫緊の課題が山積しております。 これらの様々な課題解決に加え企業価値向上のため、人的資本の確保と育成、生産性の向上、安全衛生・品質管理の強化、サステナビリティ経営の促進、新分野への挑戦に取り組んでまいります。		
アールアンドアール			福田道路			大日コンサルタント		
落雷バリア・アルミケーブл専用端末処理機材レンタル			「マルチファインアイ」等、道路の維持管理の効率化を図る技術			現実空間と融合するB I M／C I M		
①落雷バリアとは【落雷現象を発生させない避雷針】で人・建物・電子資産を守る！当社では設置工事は勿論、販売、レンタルと様々な方法をご提案致します。 ②古河電工グループが展開する『らくらくアルミケーブлシステム』の施工に必要な専用機材レンタルをご紹介します。近年、銅導体に代わる低圧アルミ導体として注目されています。 ※『らくらくアルミケーブлシステム』は日本に於ける古河電工の商標登録です。			A Iによる舗装診断システム『マルチファインアイ』の動画によるデモンストレーション、舗装ジョイントシール材『ファインテープ』及び、シート状の凍結抑制舗装『ファインシート』のサンプル展示、簡易路上表層再生工法『ヒートドレッシング工法』及び、縦断ひび割れ補修工法『ヒートドレッシングJr.』の動画による施工現場の紹介、工事車両無音誘導システム『おとなしくん』の実機展示など			当社では3次元データを活用した設計を積極的に進めていますが、その中で作成した様々なB I M／C I Mデータを二種類の方法で現実空間上に表現します。 一つ目は最新の3Dプリンターによる高精細な立体模型。画面上で把握しにくい複雑な3次元モデルの形状を手にとって確かめることができます。 二つ目は裸眼で3次元モデルを立体視する技術です。点群などの3Dプリントが不可能なデータでも立体的に表示することが可能です。		
ダイヤテックス			りんかい日産建設			川田建設		
現場火災のリスク低減に一役！燃えにくい難燃テープ			PONTOSー水中測距システムー			K Kグラウト注入工法、架け替え工事向けP C中間定着工法		
橋梁や高速道路の補修工事等火災の危険性がある作業現場では、防災・不燃性のシートが使用されています。しかしそれを一般的な布テープや養生テープで固定すると、火種がテープに飛び移った場合導火線となり、防災シートも延焼する可能性があります。 過去の現場火災の教訓から粘着テープも燃えにくい仕様が求められ、開発したのが「難燃テープ FR-10-WH」です。 自己消火性があり燃えにくく(ノンハロゲン系難燃剤使用)、手で切れるため作業性も良好です。 防災シートだけではなく本製品を使用することにより、現場火災の要因を減らすことが可能です。			『PONTOSー水中測距システムー』は、水中構造物の3D点群モデル生成に特化した高性能カメラ搭載の水中ドローンです。自動連続撮影により、S f M解析に適した高品質・高ラップ率の画像を安定取得。ホバリング機能で潮流下でもブレの少ない撮影が可能です。 生成された3D点群モデルは、形状把握や経年変化の比較、損傷の定量評価などに活用でき、水中部の高精度な可視化・測量を実現します。			私たち川田建設はP C(プレストレストコンクリート)を中心に橋梁の新設から既設橋梁の維持・修繕などを行っています。今回の展示内容は下記のとおりとなります。 「K Kグラウト注入工法」、架け替え工事向け「P C中間定着工法 i-Fix」、雨水貯留施設「エコマール」、アルミ製常設足場「パーマナントデッキ」		
循環式ハイブリッドプラストシステム工法協会			熊谷組			横河ブリッジ・日軽エンジニアリング		
循環式ハイブリッドプラストシステム工法			令和6年能登半島地震国道249号啓開作業その2工事導入技術の紹介			橋梁維持管理・予防保全製品 アルミ合金製常設足場cusa		
「循環式ハイブリッドプラストシステム」は、橋梁の補修・補強工等において、鋼構造物の素地調整(1種クレン)やコンクリート劣化部のチャッピングを行うための循環式機能付きのプラスト工法である。プラスト処理後のクレンかす(研削材・剥離物)を吸引分別し、研削材を循環させ再利用できるのが特長。 研削材と旧塗膜・コンクリート粉を分別できるほか、研削材は繰り返し投射可能で、旧塗膜やコンクリート粉は集塵分別されダストボックスに回収する。 研削材と塗膜を完全分離させることにより鉛やP C Bなどを含有する塗膜のみを処理することができる。			無人化施工技術は、遠隔地から無線通信技術を利用し、遠隔操作式建設機械を用いて施工する技術の総称です。主に自然災害被災地の危険性が高い施工現場より、離れて設置した操作室で遠隔操作し、オペレータの安全を確保する施工方法です。能登半島地震国道249号啓開作業では、ネットワーク対応型無人化施工システム、A I制御による不整地運搬車の自動走行技術を導入し、初の夜間施工で土砂運搬作業の効率化を図りました。無人化施工V R技術は、遠隔操作でありながら実際に搭乗した体感に近い環境で操作できる技術です。その他、コッター式継手でプレキャストP C床版を急速施工する、橋梁用「コッター床版工法」を出展します。			橋梁に5年に一度の定期点検が義務付けられ、検査路に替わる桁全体を覆う常設足場が注目されています。常設足場設置により橋梁点検車等による車線規制が不要となり、足場内で床版下面や桁部材の面的な近接目視点検が可能となります。 アルミ合金製常設足場「cusa」の歩路面はフラットで台車による資機材運搬も可能なため、補修作業の足場としても利用できます。また、桁本体をパネルで覆うことで飛来物等分の侵入を防ぎ桁本体の腐食環境が大きく改善されるとともに、床版コンクリートの剥落等による第三者被害の防止にも寄与します。 橋梁の維持管理の省力化と予防保全に対応できるcusaは、橋梁老朽化対策の最適解となります。		
中央復建コンサルタンツ			プレストレスト・コンクリート建設業協会関東支部			未来樹脂		
D X・I C T分野をリードするC F Kの新たな技術紹介			高度化するニーズに応えながらP C事業の基盤づくりに貢献します			高炉スラグインサート、高炉スラグスパーサのご提案		
本展示会では、当社の「橋梁技術」×「D X・I C T技術」についてご紹介いたします。 当社は約80年の歴史の中で、総合的な技術力と創造力で数多くの橋梁を世に送り出してきました。当社の橋梁エンジニアは、人々の暮らしを安全・快適・豊かにする橋づくりに目指して日々取り組んでいます。 D X・I C T技術では、生産性向上を図るi-Constructionが推し進められている中、スマホやタブレットで2次元バーコードを読み取るとその場所の完成予想図や施工ステップ状況を360度で確認可能なソフトを開発し、合意形成や建設現場に役立つ技術を提供しています。			わが国のプレストレストコンクリート(P C)技術は、1952年の事業化以来、種々のコンクリート構造物に採用され、世界的にも高い評価を確立しております。 1955年、専業者によりP C工業協会として発足した当協会は、その後一般建設業者の参加も得て、現在会員数33社と、わが国におけるP C工事のほとんどを手がけている業者の団体にまで発展しております。 P C建設業界の健全な進歩と発展を図り、それをもって社会インフラの整備拡充および人々の生活を豊かにする開発を究極的目標として、調査・研究と技術の普及に研鑽を積み重ねております。			①ecoスラグスパーサ(特許出願中)：高炉スラグを使用してC O2を削減。モルタルスパーサに代わる軽量で高強度な低炭素時代にふさわしいスパーサです。 ②ecoスラグインサート(特許出願中)：金属インサートに代わる新たな素材の提案。高炉スラグの使用により、PCa製品との親和性の高い決して錆びないインサートです。 ③RFID製品管理システム：PCa製品にRFIDタグを埋め込み、個別に識別して誤出荷を防止するシステムです。 展示会場でecoスラグの質感や軽さをぜひその手でお確かめください。		
ショーボンド建設			K J S協会／アンカー補修協会／NMアンカー協会			和建		
メンテナンス市場のトップランナーとしての開発技術			E H DアンカーHP工法(グラウンドアンカー)			「工事現場への思いやり」和建からの新しい提案です。		
メンテナンス市場のパイオニアとして、60年以上にわたり日本全国の様々な社会インフラのメンテナンスに携わってきました。 特徴のある「耐震デバイス」「伸縮装置」「簡易的な補修材」を紹介します。			本工法はグリースレス構造と無電解ニッケルメッキ定着具により、高い防錆性能と維持管理性を実現したグラウンドアンカー工法です。頭部背面部の廃止と透明キャップの採用により、施工の簡便化と耐久性向上も図られている最新のグラウンドアンカー工法です。グリースレス構造：アンカー頭部の見える化を実現し、グリースを使用しないため、定期点検が容易になり、維持管理性が向上します。 無電解ニッケルメッキ定着具：2000時間の塩水噴霧試験で錆の発生が確認されず、高い防錆性能が実証されています。 背面部廃止・プレート止水構造：頭部背面部を廃止し、プレート止水構造を採用することで、背面部の点検が不要となり、耐久性が向上します。			土木仮設資材の賃貸業でトップクラスの実績・質・在庫量を誇る当社。幾多ある商品ラインナップの中で今回は送電線関連工事向け商品に特化した展示を行っています。送電線関連工事に最適な「Wマット」を始め、軟弱地盤で使用する「グリップロードマット」、安全対策に最適な滑り止め付敷鉄板「すべらん君」といったお客様の意見を取り入れ商品化した商品を表示しており、お立ち寄り頂いた皆様に新しいご提案をさせていただきます。 お気軽にお立ち寄りくださいませ。		
ソフトバンク			J F Eグループ			NEXCO東日本 関東支社・ネクスコ東日本イノベーション&コミュニケーションズ		
人工衛星を利用した高精度測位サービス「ichimill」			J F Eグループの省力化に貢献する商品×環境対応を御紹介			グループ一丸となり、未来につながる高速道路を目指して		
全国3300カ所以上に高密度に設置されているソフトバンクの独自基準点が受信した信号を基に、「測位コアシステム」で補正情報を生成し、インターネット等を通して建機、ドローンなどに搭載されたG N S S受信機(移動局)へ補正情報を配信します。 この補正情報と、G N S S受信機が受信した信号を活用してR T K測位を行うことで、誤差数センチメートルの高精度な測位がリアルタイムで可能になります。 また全国に高密度に設置されているソフトバンクの独自基準点を利用するため、お客さま自身で基準点を設置する必要がなく、全国ほとんどのエリアで手軽にサービスのご利用が可能です。 建機の自動化や現場管理の効率化、ドローンの飛行経路の自動制御等にご活用いただけます。			J F Eグループは以下2テーマを軸に展示を致します。 ①省力化に貢献する商品の御紹介②J F Eの環境対応を御説明。 ①はJ F Eグループ 8社(J F Eスチール・エンジニアリング・建材・シビル・鋼板・ジェコス・J F E商事テールワン・J F E機材フォーミング)の商品から、人手不足が社会課題となる中、省力化に貢献できる商品・技術を御紹介し、建設業界の生産性向上・工期短縮のお役に立てる展示を実施します。 ②環境パートナーでは、グリーン鋼材の考え方や、環境配慮商品を御紹介し、J F Eグループの環境への取組みを御紹介致します。 皆様のお役に立てる展示を目指します。是非J F Eグループブースにお立ち寄り下さい。			日本の高速道路は開通から50年以上が経過し、老朽化が進むとともに総延長は約1万kmに達しています。そのうちNEXCO東日本グループは、東日本地域の高速道路・自動車専用道路の建設と管理・運営等を行っています。 公共インフラ事業を担う当グループは、高速道路のプロ集団として「安全・安心・快適・便利な高速道路サービスをお届けすること」を社会的使命としています。 NEXCO東日本グループは、社会的使命を着実に果たしながら地域・国・世代を超えた持続可能な社会の実現に向けて、「つなぐ」価値を創造し日本経済の発展に貢献し続けます。		
先端建設技術センター			L is B (direct／ダイレクト)			青木あすなる建設		
NETIS新技術情報提供システム登録申請支援事業 A Iを活用した肌落ち予測アプリ			directナレッジ動画タグショット・タグアルバム			浅水域で威力を発揮する水陸両用ブルドーザ		
NETIS新技術情報提供システム登録申請支援事業：(一財)先端建設技術センターでは、民間事業者により研究・開発された新技術が国土交通省の運営するNETIS新技術情報提供システムへ早期に登録されることを目指して、民間事業者が行う登録申請の支援を行います。 A Iを活用した肌落ち予測アプリ：A I技術と画像処理を用いて山岳トンネルの肌落ち予測システムを開発し、実現場での運用を行っています。アプリは坑内で使用することが可能で、撮影したその場で結果を見ることが可能です。			LisBのブースでは、建設・インフラ業界など5500社超が導入するビジネスチャット「direct／ダイレクト」をはじめ、現場業務を効率化する各種ツールをご紹介します。 シンプルなお操作性と高いセキュリティ、チャットボットによる定型業務の自動化が可能な「direct」、撮影するだけでクラウド共有・自動分類できる「タグショット／タグアルバム」、動画で技術やノウハウを伝える「ナレッジ動画」など、多彩なソリューションをご用意しております。 ぜひお気軽に弊社ブースへお立ち寄りください。			水陸両用ブルドーザ(作業水深7m)は1971年以来1200件以上の施工実績があり、政府が推進する流域治水プロジェクトに河道掘削工事などで貢献するほか、ダム堆砂除去、港湾、漁港、漁場などの整備維持工事や災害復旧工事で活躍しています。 2022年新たにマシンガイダンス機能を搭載し、I C T施工対応となりました。現在、気候変動対応等の増大する社会課題解決に向け、コマツと共同して水深50mまでを視野に、自動制御とI C T機能により、熟練技術がなくても誰もが簡単に操作が可能な電動式の水中施工ロボットの実証実験を進めております。		
人・夢・技術グループ			建設システム			森環境技術研究所		
人が夢を持って暮らせる安心・安全な社会を技術で創造します！			普段使いのI C T・ARとクラウド施工管理技術で建設D Xを支援			泥に悩む時間にさよなら 高含水泥土改良剤MTシリーズ		
人・夢・技術グループは、建設コンサルタント事業や情報システム関連事業等を営む企業グループです。橋梁・道路・交通・鉄道・港湾・河川・地盤・環境・エネルギー・まちづくり・防災・I T／I C Tなど、地盤から宇宙まで、人々の暮らしを支えるあらゆるインフラサービスを提供しています。 基幹事業の充実と積み重ねに加え、スマートシティや空飛ぶクルマ、I T／I C T、A I活用などの新事業を展開することで、国土強靱化、インフラ長寿命化、少子高齢化、地域創生、そして気候変動といったあらゆる社会課題の解決に貢献しています。 展示会当日は、グループ各社のデジタル技術を活用した基幹事業や新しい取り組みを紹介します。			当社は創業30年以上の建設業向け施工管理ソフトメーカーです。施工管理システム「デキスパート」シリーズをはじめ、常に現場の視点で商品開発を行っています。現在は大手ゼネコン様から地場の建設会社様まで約4万7000社にご利用いただいております。 当社ブースでは「普段使いのI C T・AR」「クラウド施工管理技術で建設D Xを支援する」をテーマに、「AR／3D計測】【B I M／C I M】【土木・建築向けクラウド施工管理】【遠隔臨場 /遠隔検査】【A I配筋検査】【C U S連携】【人員・資機材配置計画」などのソリューションをご案内いたします。			これまで建設現場で泥が発生した際には、バキューム車による吸引、天日乾燥、セメントや石灰による固化等が用いられてきましたが、時間やコストが問題でした。 この問題を解決するため「いかに短時間で安価に泥を搬出させるか」というテーマで開発したのが、高含水泥土改良剤MTシリーズです。 ブースで実演を行いますので、実際に改良具合をご覧ください。持ち帰り用サンプルもご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。		

(第3種郵便物認可)		日刊 建設工業新聞		2025年(令和7年)11月14日(金曜日)		(8)
C-XROSS 2025 Construction Cross 2025						
前田建設工業		いであ		国土防災技術／サンスイ・ナビコ		
トンネル維持更新技術、ESCON T Pジョイント		「流量・河川・環境が見える！最新技術発信」		土と水と緑の技術&斜面防災に関する製品をご紹介します！		
導水路トンネルリニューアル工事における自動化技術として、「吹付・左官自動施工台車」「パネルライニング台車」「自動搬送台車」をご紹介します。 また、高速道路リニューアル時の床版取替工事において、工期短縮と疲労耐久性の向上を実現する新たな床版継手技術として、「ESCON T Pジョイント」をご提案いたします。		本展示では、最新の技術を用いた「流量観測」「3Dゲームエンジン」「川デジ」「河川環境と河川整備」をテーマに、河川に関連する革新的なアプローチを紹介します。 流量観測技術では、模型を展示しカメラ画像を活用してリアルタイムで河川流量を安全・正確に計測する技術を紹介します。次に、3次元ゲームエンジン上でインフラ整備を可視化する技術を通じて、より直感的な理解を促進します。また、川デジ技術を活用した美しい川づくりについては、3Dデータを駆使して効率的に河川を整備する方法を展望します。 最後に、河川環境と整備の両立を目指した解析技術を紹介し、持続可能な川づくりを目指す技術を紹介します。		【国土防災技術】土と水と緑の技術で社会に貢献する建設コンサルタントです。本展示会では、以下の技術をご紹介します。①高品質コア採取技術・Q Sボーリング工法②特殊土質試験③蛍光X線分析装置を活用したコンクリート塩分調査 【サンスイ・ナビコ】斜面に関する防災・復旧・緑化の各ステージで必要な土木資材を、開発・製造・販売する斜面の専門会社です。本展示会では①Fixr（フィクサー）グラウンドアンカー工法②仮設ECOバインド工法③ロックボルトバックカー		
豊国工業		銭高組		三国屋建設		
先人の技術の結晶を現代の技術で磨き上げ未来へつなぐ水門メーカー		脱炭素技術「TUNNEL EYE、CO ₂ オンサイトDACS」		100隻の作業船と海の職人集団		
我が社は、ダム、河川、水路、港湾などに設置される、水門設備の専門メーカーです。水害から人々の命や暮らしを守り、豊かな暮らしに必要な水を制御するため、新たな技術に挑戦し、さらなる技術の向上を目指して未来に向けた活動を行っています。 建設技術展では、新たな水門用ワイヤーロープウィンチ式開閉装置、LPWAを活用した危機管理型水門管理システム、アプリでの水門遠隔操作システムをご紹介します。 ブースでは、これらの製品に関するパネルや模型を展示します。LPWAを活用した危機管理型水門管理システム、アプリでの水門遠隔操作システムに関しては、デモ機の確認、操作の体験も出来ます。ぜひ『ホウコク』のブースにご来場ください。		山岳トンネル工事における当社の技術を紹介します。 「TUNNEL EYE」は、トンネル内の作業環境を自動計測・分析し、換気ファンなどの設備を最適制御するシステムです。実際の現場導入では電力由来のCO ₂ を約24%削減することに成功しました。 「CO ₂ オンサイトDACS」は、トンネル内で発生するCO ₂ を直接回収し利用する技術です。重機や工事車両の排ガスからCO ₂ を分離回収し、人工石灰石として吹付コンクリートの材料に利用します。 この二つの技術を連動させることで、電力由来のCO ₂ 削減と燃料由来のCO ₂ 削減を同時に実現します。当社はこれらの技術を通じてカーボンニュートラル実現に貢献してまいります。		関東・東北の各地に事業所を置き、100隻を超える社有船舶と30余名の社内潜水士を始めとする機動力と技術力をもとに、全ての社員が『海の職人』となることを目指しております。全国津々浦々の水上、水中において『海を造る』匠の会社として、また、不慮の災害時には『海を守る』力強い防災会社として、地域に、更には、社会に貢献できるよう努めています。また、こんな技術があったらいいな！あともう少し！といった要望をかなえるべく建造した、DPS起重機船「いばらき700」をはじめ海の職人のオリジナル工法を用いて困難な場所や環境においても安全な作業を提供しております。		
丸藤シートパイル		佐藤工業		大本組		
NETIS登録のRG工法で工期短縮、産廃処分ゼロを実現		HMD無線遠隔操作システム・低炭素型自己充填覆工構築システム		ニューマチックケーソン工法による流域治水対策他		
○RG工法 驚異的な貫入力を誇る、油圧可変式超高周波バイプロを搭載した次世代工法。セメントミルク・残土処分不要。工期短縮、コスト低減を実現。（NETIS登録番号：SK-240008-A）。 ○Hyper橋樑 H700～900桁に代わる新世代型仮板橋桁。支持杭間隔10m～13mの中支間において、『早い（75日～）・安い（79千円/㎡～）・丁寧い』を実現。（NETIS登録番号：KT-170092-A）。 ○M-craft 重仮設BIMシステム『M-craft』によるモデル作成サービスを展開。ニーズに応じた高品質のBIM/CIモデルを迅速納品。		佐藤工業は、『建設品質。』をキーワードに、社会・お客さまの満足度向上と高品質・高付加価値の実現のために、トンネル施工の省力化、省人化による生産性向上への取組みを行っています。 一つは、HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を用いてドリルジャンボを無線遠隔操作するシステムです。切羽画像、ズーム画像、パススルー画像の3つの画像を合成してHMDに表示し、ジャンボ操作室にいる感覚で無線遠隔操作が可能となります。 もう一つは、低炭素型自己充填覆工構築システムです。セメントの一部をフライアッシュに置き換えた低炭素型自己充填コンクリートを利用し、圧入方式を採用することで、省力化とCO ₂ 削減を実現しました。		ニューマチックケーソン工法は地下構造物としての信頼性が高く、無人化施工により大深度への適合性が優れた工法です。洪水・浸水の被害を軽減するために、地下空間を利用して地下調節池や地下河川の立坑、浸水対策用の雨水ポンプ所等の建設に採用され、人々の暮らしに安全・安心をもたらす流域治水対策に貢献しています。 山岳トンネルにおいて、作業員が目視で行ってきた掘削状況の確認や計測作業を、LiDARで計測した現況と設計面との差分を切羽や床掘面にプロジェクションマッピングにより可視化し、安全性の向上や省力化を図ります。 良材を再利用した人工魚礁による魚類等の生息空間や藻場の創出により、脱炭素社会へ貢献しています。		
片平新日本技研		KANSOテクノス		エムオーテック		
「交通インフラ総合コンサルタント」の本領発揮！		埋設物探査や水路点検だけでなく環境保全にも取り組んでいます！		最新の施工効率化技術、革新的な環境配慮技術、信頼と安心の防災技術を紹介		
見栄えが良くて、新しい技術を取り込んでいそうで、効率的…とか言われると、なんだか建設DXに触れている気になりませんか。 コンサルタントとしては、アプリやツールの機能・性能を誇示するのではなく、発注者や社会から「本当に求められていること」を見失わずに、「コスト」「スピード」「出来映え」のバランスをとった提案を行う。これこそが我々の建設DXだと考え、試行錯誤しております。 今回は、VR技術を活用して、「教育のための構造物点検シミュレーション」、「PLATEAUや点群を利用した地域空間再現VR」などのプレゼンテーションを行います。是非、ブースにお立ち寄りいただき、試行錯誤の一端をご覧ください。		弊社の土木事業部では、目視では確認できない地中構造物や埋設物、地層の確認を豊富な非破壊検査技術で検出しますので、撤去・新設工事の設計に貢献します。 各種水路構造物には弊社が保有する特殊ドローン・ROVで、設備管理者様から抱えている様々な課題解決のご提案をさせていただきます。 環境事業部では、気象観測や風力発電に欠かせない風況観測、森林・河川・海洋における様々な環境・生物調査もご提案し、持続的な社会実現のために貢献し続けます。		高強度部材（HS-beam）は、既存の山留材500型と同サイズながら2倍以上の強度を持たせた商品になります。曲げスパンを広く設定できるため切梁を減らした設計が可能で、広い作業空間の確保によって支保工の設置撤去や躯体構築が容易になり、施工性の向上を実現します。主に橋台、橋脚の締切工に使用される腹起しへの利用を想定しています。 環境配慮型CO ₂ 削減ソイル工法に使用されるセメント系懸濁液は、普通セメント使用時と比較してCO ₂ の排出量を大幅に削減することが可能です。鉄鋼業の副産物である高炉スラグを有効利用しており、省資源・省エネルギーに貢献しております。 その他、エコタワークレーン杭、パネル式防護柵、ミニガード等、多数の製品を紹介しております。		
JR東日本コンサルタンツ		鉄建建設		IHインフラシステム		
鉄道で培った経験とDXの融合による設計メンテナンス技術の紹介		山岳トンネルにおけるCO ₂ 排出量削減への取組み		水門用蓄電バックアップシステム、3Dモデルスマート点検ソリューション		
JR東日本コンサルタンツ株式会社は、1989年の設立以来、鉄道を基軸とした総合技術コンサルタンツとして調査・計画、土木設計、メンテナンス・防災計画、技術開発、施工監理・積算、ICT事業等、様々な取組を行っています。 展示会では、土木設計とメンテナンスにフォーカスした弊社技術の一部を展示いたします。 「線路近接工事における鉄道構造物の影響判定」「小型ドローンを用いた土木構造物調査」常時稼働による構造物モニタリングシステム ReMoSys」		鉄建建設は、持続可能な社会の実現をめざし、環境保全に貢献する技術開発やCO ₂ 排出量削減に取り組んでいます。 環境保全に貢献する技術開発の一環として、山岳トンネルにおけるCO ₂ 排出量削減を目標に、高炉セメントB種を用いた場合の吹付けコンクリートを実施工に適用しました。今後もCO ₂ 排出量削減技術のひとつとして現場展開を進めて行きます。 加えて、様々な分野での一層の低炭素化をめざし、さらなる技術開発にも挑戦し続けます。		水門の停電時操作を可能にする『水門用蓄電バックアップシステム（ERBシステム）』、国土交通省「点検合理化技術」に対応し、記録作成から報告まで点検業務の効率化・省力化を実現する『GBRAIN InsRet』、誰でも水門を学べる体験型研修施設『防災・水門技術研修所』の3つの水門の維持管理に関する技術をご紹介します。 『3Dモデルスマート点検ソリューション（Dap3）』はクラウド上で写真データ、欠陥・損傷箇所、3次元モデルの一元管理を可能にし、さらに点検結果の効率的な共有と維持管理業務の改善を実現するサービスとなっております。		
東亜グラウト工業		Pix4D		SUPERJET研究会／X-JET協会		
土石流・流木対策工 インパクトバリアDタイプ		スマホ3D点群計測 PIX4Dcatch RTK		巨大地震対策工事の切り札 大型高速地盤改良のSUPERJET工法、一定の改良径を実現するX-JET工法		
インパクトバリアDタイプは、溪流に設置する土石流・流木対策工であり、主要部材であるリンクネットおよび衝撃緩和装置が変形することで大きな衝撃エネルギーを吸収する柔構造工法である。 本技術においては、土石流・流木の捕捉性能を水理模型実験により検証し、さらに土石流の耐衝撃性能を実物大の土砂実験により検証することで、防護柵の安全性を確認している。 インパクトバリアDタイプの特徴は以下のとおりである。 ①短期間での施工が可能（最短1カ月）で、非出水期の期間内に設置が可能である。 ②透過構造であるため、土石流に加え流木の流下を防止可能である。		PIX4Dcatchは、スマホなどのモバイル端末で簡単にできる、3D点群スキャンのソリューションです。スマホにRTKのアンテナを装着することで、数cmの位置精度を持った点群が生成できます。建設分野においては、起工測量や出来形計測、日々の進捗モニタリングといった幅広い用途でご活用いただけます。 スマホで計測した点群から、座標や面積、体積の計測ができるほか、点群をエクスポートして出来形計測にも使用することができます。さらに、今回の展示では、スマートフォン一つで完結するAR技術や、ドローンによる点群計測の紹介に加え、RTK GNSSアンテナの展示もあわせて行います。		本工法は開発以来、立坑築造に伴う底盤改良や先行地中梁、シールド工事に伴う坑口防護、地中接合等の仮設工事に適用されてきました。近年では、社会基盤整備や維持修繕事業への適用が増え、耐震補強や液状化対策工事に用いられ、おかげさまで約30年の実績を重ね、2000件以上の工事実績があります。 SUPERJET工法は、改良径φ2.0m～6.0mのタイプを取り揃えており、高速化と大口径化を図った工法です。X-JET工法は、改良径φ1.5m～2.5mのタイプを取り揃えており、2本の超高圧ジェット噴流を一定距離で交差させることで、地盤の硬軟に左右されず一定の改良径が造成できる技術です。		
応用計測サービス		太陽誘電		協和製作所		
地盤調査機器レンタル・製造・計測サービスのOKSです！		水害・橋梁監視、回生電動アシストシステム、ミリ波レーダー		無人操作、無動力作動方式の水門・樋門用自動ゲート設備		
自動計測が可能なプレッシャーメータ試験装置の実機展示を始め、その活用方法について紹介するとともに、各種孔内カメラ、原位置試験装置、物理検層／物理探査等の各種地盤調査サービスを紹介します。地盤調査に関してお困りの際はお気軽にお声がけください。		「水害モニタリングシステム」で河川や水路の管理業務を軽減。内水氾濫、道路の冠水を早期に検知し、事故の未然防止に貢献。「橋梁モニタリングシステム」で橋梁や道路の効率的な保守・メンテナンスが実現可能。「平時でも災害時でも活躍する回生電動アシスト自転車」でエネルギー消費・CO ₂ 排出ゼロ、健康寿命延伸に貢献。「ミリ波レーダー」の見えないものを見る技術で、重機を使った作業をより安全に、またインフラ構造物の保全、ドローンなどによる新しい移動の安全に貢献。		『オートフラップゲート』及び『オートフラップゲート・L型』は、河川や海岸の水門・樋門に適用できる無動力無人操作方式の自動ゲート設備です。 大雨や台風による河川の増水、或いは高潮・高波、津波発生に対し、管理者の操作を必要とせず、また停電による動力制御電源の喪失に関係なく、適宜・的確に開閉作動し、確実な自動止水と円滑な自動排水を行うことができます。 各々『下ヒンジ式』と『上ヒンジ式』の異なるフラップ形式の特性を活かし、作動制御と任意操作の機能整備を図り、設置場所の条件や設備用途に対応した安全で効果的な自動ゲート設備を提供できるよう技術の研究開発を進めています。		
ソリトンシステムズ		コルク		建設業振興基金 建設キャリアアップシステム		
超遠隔操縦のための映像通信システム		デジタルツイン施工管理クラウド「KOLC+」		建設キャリアアップシステム（CCUS）		
建設機械の遠隔操縦を現実のものにする映像通信システム「Zao-J」。複数の携帯キャリア回線やStarlink回線を束ねることで、電波環境が不安定な現場でも映像と制御信号を途切れさせない安定通信を実現。 先月、ウクライナ・キーウ市において、約25km離れた建機を遠隔で操作する実証にも成功。過酷な通信環境下でも確かな制御を維持し、その性能は海外でも高く評価されています。 「Zao-J」は、現場の安全性向上、熟練技術者の遠隔支援、省人化施工を強力に後押しする、“導入ですぐ使える、遠隔施工ソリューション”です。		KOLC+（コルクプラス）は、BIM/CI M、点群、2D図面、360度画像、計測データなどを一元的に統合・共有・活用できるクラウドサービスです。 計測データをAWSや外部クラウドからAPIで取得し、デジタルツイン上に3Dグラフとして可視化する新機能（特許取得済）を提供開始。2次元では確認しにくかった変位量と変位方向も直感的に把握できます。 また、RTK GNSSと3Dモデルをノコードで連動できる「リアルタイムデジタルツイン」にも対応。土量計算、配置計画、断面DXF出力、4D工程表（NETIS-VE）などの機能と組み合わせ、現場のデジタルツイン活用を推進するプラットフォームとなっています。		建設キャリアアップシステム（CCUS）は、就業履歴や保有資格を適正に評価し、建設技能者の処遇改善に繋げることに、優秀な技能者を育成する所属企業が評価され、受注機会確保に繋がる環境整備を目的に、国と業界が一体となり推進している建設産業共通のシステムです。 技能者が保有するICカードに、就業履歴や保有資格を蓄積・登録することで、能力評価を4段階で行います。技能者166.2万人、事業者29.5万社がすでに登録され、CCUSの活用は全国的に広がっており、国や地方公共団体等のモデル工事で建退共との連携など、官民一体となった取組の推進やCCUS利用拡大に向けたメリットの拡充を一層進めて参ります。		
DTSインサイト		DataLabs		キャリア・ナビゲーション（コンキャリ）		
現場に行かなくても一画面で状況把握「サイトダイバー」		Modely・Hatsuly・Markly		建築土木就活総合サービス「コンキャリ」		
現場巡視や打合せの負担を大幅に軽減できる建設現場向けダッシュボードです。 現場に導入済みのシステムやカメラと連携することで、施工範囲が広い現場や遠い現場でも、進捗状況を容易に確認できます。また、施工管理に必要な情報を複数表示できるので、計画の見直しや関係者との打合せもスムーズに進められます。 当社ブースでは、実践的な活用例をご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。		Modely・Hatsuly・Markly ■Modely LiDAR付きのiPad等を活用することで点群データを取得し、その点群データを3Dモデルに変換することで、配筋検査における検査項目の実測値を自動で帳票化。NETIS活用促進技術に選定、NETIS-VE昇格済の実績豊富なサービスです。 ■Hatsuly 橋梁補修工事における、表面被覆工や剥落防止工の出来形検査、断面修復工における出来形検査など、インフラ補修における検測を効率化するシステムです。 ■Markly 取得した構造物の点群データを活用し、ひび割れや塗装剥がれといった損傷箇所について、システムにてトレスすることで、2DCAD図面及び数量計算書を自動生成します。		全国の土木建築学生が活用している建設産業に特化した総合型就活サービスです。就活コンテンツ数No.1＊のプラットフォームで、多くの建設産業の企業様に採用サービスとしてご利用いただいています。 毎年多くの土木建築学生の方が訪れ、専門のアドバイザーが建設業の就活を伴走しています。 ＊日本マーケティング機構調べ 調査概要：2024年10期 指定領域における市場調査		
日本コンストラクション・マネジメント協会		高洋商会		JSCB日本鋼構造物循環式プラスト技術協会		
新たな建築生産方式「CM方式」の紹介		透水ボード型枠【アクアトル】 透明型枠【クリアフォーム】		循環式プラスト工法、循環式ショットビーニング工法		
新たな建築生産方式として、発注者の立場に立ったCM rが、プロジェクトの目標や要求の達成を目指して、プロジェクトを主体的に進めていく「CM方式」が注目されています。 今年で4回目となる出展ブースでは、大型パネル展示「解説：CMってなんだ？（解説）」「実績：CM選奨2025受賞作品」および大型モニターで動画コンテンツの放映を行います。 ステージプログラムでは、11月20日（木）14：40から特設STAGE B【展示ホールD】にてパネルディスカッション「未来をつくる私たちのマネジメント」にて、将来建設マネジメント領域での活躍が期待される若手たちが登壇します。		現場の声から生まれた二つの革新的型枠をご紹介します。業界初のボード型透水型枠「アクアトル」は、余剰水を排出して高品質なコンクリートを実現。取り付け作業の効率化と美観の向上にも貢献します。 透明型枠「クリアフォーム」は、打設状況の可視化により安心・安全な施工管理を可能にし、橋脚・護岸・トンネルなど多様な工事で3000件超の採用実績があります。いずれもNETIS登録商品です。		日本の経済発展を支えてきたインフラが老朽化により急速に損傷し始めています。私たちは鋼製橋梁の長寿命化に効果的で、なおかつ環境性と経済性に優れた工法を開発しました。 産業廃棄物と粉じんの発生を最小限に抑制した「循環式プラスト工法」（建設技術審査証明取得技術 建審証第2201号）で「鋼製橋梁の腐食を予防！さらにそのプラスト機材を有効活用し、既設橋梁でのショットビーニングを可能に」循環式ショットビーニング工法（国内特許第6304901号／第6501718号、米国特許 US 1 1 959148 B 2）で「疲労き裂も予防！ふたつの工法で予防保全型メンテナンスを推進します。		

C-XROSS 2025

Construction Xross 2025

ともに創る建設の未来。

鹿島道路	D-69	若葉建設	D-70	キャドセンター	D-71
全天候型補修材（カジマクールミックスアクア）		ウインドブレイン工法		建築ビジュアライゼーションで社会課題を解決いたします！	
全天候型緊急補修材「カジマクールミックスアクア」は、水をかけ、転圧して使用する常温の補修材です。 水で固まるため雨天時にも穴埋め等の補修ができ、強度発現が早く転圧後の即時交通開放が可能であるため、規制時間の短縮が期待できます。 説明員がサンプルや動画をを使って説明しますので、ぜひお立ち寄りください。学生さんも大歓迎です！		ウインドブレイン工法(Wind-Blade-install工法)は、4 MW級の風車をリフトアップ装置で組み立てる工法です。従来工法で用いる移動式大型クレーンを必要としないため、省スペースでの施工が可能です。 組立装置は、支柱、クライミング装置、門型クレーンで構成され、中型クレーンによる部品の吊り込み以外は、自装置によるリフトアップで風車を組み立てます。各パーツを昇降ステージごとにリフトアップしてステージ上で組み立てを行うことから、従来工法に比べ安全性が大きく向上します。		キャドセンターは、3 D C G技術をベースにした映像、静止画、インタラクティブコンテンツ、V Rコンテンツ、シミュレーション制作関連のビジュアライゼーション環境の構築・提供を行っております。また、全国の都市・港湾3 D モデル上への各種データ可視化による都市D Xの企画・コンテンツ制作も行っております。 建設技術展2025関東では、都市ビジュアライゼーション×デジタル技術を掛け合わせて建設・建築業界の社会課題を解決いたします。3 D都市モデルなどを活用したフォトリアル3 D C Gをご体験できるコンテンツをご用意しておりますので、ぜひご来場ください。	
太啓建設	D-72	八千代エンジニアリング	D-73	竹中土木	D-74
コンクリート湿潤・保温養生シート（潤王「うるおう」）		「インフラメンテナンスの包括的民間委託」「PRIMOS」		力触感Feedbackによる遠隔岩判定	
「潤王（うるおう）」は、吸水性不織布とフィルム加工エアセルマットをジグザグ縫製により一体化させたコンクリート養生シートである。養生面（水平・鉛直兼用）に敷設することで、散水後のコンクリートの湿潤・保温養生効果の長期保持が可能となる。 【製品仕様】幅1.2m（不織布面1.11m）×長さ20mロール、3.5kg／本。 【特徴】水分滞留効果による湿潤性長期保持。 【優位性】①水和反応促進による品質向上効果②軽量化による運搬・敷設手間の省力化③コスト削減化④散水回数低減による環境 負荷低減効果。 【実績】国土交通省、各地方自治体など。		【橋梁等の定期点検及び日常点検、補修設計、長寿命化計画改定を含む包括的な維持管理】「官民連携」の包括的民間委託により統一的な視点での診断、P D C Aサイクルの推進に加え、コンサルワークと日常管理の連携で効率的な維持管理を実現します。橋梁の健全性回復・維持+職員の負担軽減を図り、持続可能な社会へ貢献します。 【AIで川ごみ対策を効率化】画像解析AI技術「PRIMOS」は川ごみの種類と量を自動で検出・分類するモニタリングシステムです。目視調査の労力とコストを削減し、スキルに依存せず浮遊プラごみを判別・推計できます。河川のプラごみ流出状況に基づき対策を推進し、環境保全と持続可能な社会の実現に貢献します。		本技術は、力触感フィードバック技術を活用してトンネル工事における岩判定を遠隔で行うことができる技術です。 検査者の遠隔操作によって、トンネル切羽の岩をハンマーで打撃すると、その衝撃や振動などの力触感がロボットを介して検査者に伝えられ、触覚的な体験が再現されます。 遠隔化によって危険なトンネル切羽に接近することなく岩判定検査を行うことで、安全性向上が期待できます。	
三共	D-75	安藤ハザマ	D-76	MetaMoJi(eYACHO)	D-77
パネル式ユニットシステムつり足場「TOBISLIDE」 「工期は削れる。安全は守れる。未来はつくれる。」		グリーン水素製造・供給による広域的省CO ₂ プロジェクト		建設D Xを強力に推進。施工管理アプリ「eYACHO」	
橋梁補修の足場工事をもっと速く、より安全に。TOBISLIDEは、パネル式のユニットシステムつり足場。"軽さ"、が生む作業効率で工期を短縮、現場の人手不足にも貢献。環境配慮の設計でS D G sにも対応。変化を起こす現場を、今こころから。 会場では新工法のデモをご体感ください。		私たち株式会社安藤・間は、ゼネコンとして日本のエネルギー問題解決に向けた「次世代エネルギープロジェクト」に取り組んでいます。つくばにある技術研究所では、太陽光由来の電力を利用して水素を製造し、これを燃料として都市ガスに混合し、コージェネレーション機の燃料として供給。さらに、複数台のN A S蓄電池を組み合わせて、エネルギープラントを整備しています。 得られた省C O ₂ エネルギーは、敷地内の大型振動台や遠心載荷装置などの電力消費が大きい実験装置だけでなく、自己託送を利用し、離れた敷地にあるP C工場や大型工事現場にも供給されます。このように、広域的なC O ₂ 削減に寄与するプロジェクトをぜひご覧ください。		eYACHO（イーヤチョウ）で、建設現場の働き方を飛躍的に改革！ 大林組と共同開発した「eYACHO」は、図面も資料もペーパーレスにして、ひとつに集約。朝礼、安全衛生会議、安全パトロール、昼夜引継、図面チェックなど、さまざまな現場業務に活用できる、建設現場アプリです。 リアルタイムな書き込み共有+ビデオ通話機能により、現場や事務所など離れた場所でも確実なコミュニケーションが取れるため、無駄な移動時間も削減できます。安全衛生日誌など書類や報告書の作成も簡単に現場で入力でき、事務所への持ち帰り業務を削減します。	
応用地質	D-78	NIPPO	D-79	復建技術コンサルタント	D-80
◆表層傾斜計クリノボールシリーズ◆地盤の可視化・モニタリング		『ハードアスコン』『リベットペープ』『ECOフォームD』		次世代維持管理とi-Con計測	
◆表層傾斜計クリノボールシリーズ：広域化・頻発化する自然災害や人手不足、インフラ老朽化の進行などに対し、D X技術による24時間遠隔監視で、早期に斜面の不安定箇所を検知し、法面監視・対策にかかる時間やコストを削減することを可能にしたモニタリングシステムです。 ◆地盤の可視化・モニタリング：交通や経済活動によって生じる微弱な振動の測定により、地盤の硬さや相関のあるS波速度の分布を把握し、3次元で地中の地質構造を推定する「3次元常時微動トモグラフィ」の技術が確立しました。そしてさらに連続測定を可能とすることで、地下工事中の地盤の硬さの変化をD X技術によりリアルタイムに監視できるシステムを開発しました。		高耐久舗装の『ハードアスコン』、『リベットペープ』は、高耐久な舗装を構築できるため舗装のライフサイクルが伸びます。そのため維持管理回数を減らせ、工事ににかかるC O ₂ 。排出量が削減できます。さらにリベットペープでは、廃棄P E Tを素材とした改質剤を使用するので、P E Tボトル等のリサイクルにも貢献します。 次に、中温化（低炭素）アスファルト混合物の『ECOフォームD』は、製造温度を従来のアスファルト混合物より低減できるため、製造に必要な燃料使用量が減り、C O ₂ 。排出量の削減ができます。		従来のコンクリート塩分濃度調査は、ドリル法と化学分析法により多大な労力と時間を要していました。これに対し、蛍光X線分析法とウェアラブルグラスを活用した非破壊検査技術を開発。ハンドヘルド型蛍光X線分析計により、測定時間を約1カ月から30秒に短縮し、ウェアラブルグラスで塩分濃度の高いエリアを可視化することで、インフラ維持管理の省人力化に貢献します。 また、河川維持管理では、堤防点検を効率化する「e-Inspection」や「e-River」を開発。さらに、i-Con計測サービスでは、M M SやU A Vなどを活用し、三次元点群計測を高精度かつ効率的に提供し、D X推進を支援します。	
エイト日本技術開発	D-81	日新インダストリー	D-82	イマギレ	D-83
防災・インフラD Xの最前線～70年の歴史と新技術が拓く未来～		溶融亜鉛めっきのお悩み解決します（補修剤・めめっき剤etc）		環境リサイクル機械～レンタル・販売・修理いたします～	
総合建設コンサルタントのエイト日本技術開発は、創業70周年を迎え、これまで培ってきた技術と最新のデジタル技術を融合させることにより「防災・インフラD X」を推進しています。 洋上風力発電施設をはじめとする水中インフラ点検で注目され、内閣府実証事業にも採択されたA U V（自律型無人潜水機）は点検の効率性とデータ信頼性を飛躍的に向上させました。今回はそれに加え、火山防災避難シミュレーションをテーマとしたプロジェクトマッチング、ゲーム開発エンジンを活用した3次元維持管理アプリ、多様なフィールドで活躍するクローラロボットを展示します。 社会資本の維持管理に貢献する先進ソリューションをぜひご覧ください。		創造と挑戦をモットーに、お客様のニーズに応える溶融亜鉛めっき補修塗料を提供しています。 展示では、建設現場で役立つさび止め塗料や補修剤として、ジンクリッチペイントや変性エポキシ樹脂塗料を多数紹介します。さらに、有機則・特化則フリーの環境配慮型塗料や、めめっき剤、白さび除去剤などもご用意。多様なニーズに対応し、お客様の悩みに寄り添った提案を行いますので、ぜひ会場でお話しをお聞かせください！		イマギレは建設機械、環境リサイクル機械、I C T機器、微細水ミスト噴霧器などの幅広い商品を経済合理性のあるレンタルというサービスでご提供しています。 特に、環境リサイクル機械のラインナップ・保有台数（150台以上）は業界トップクラスを誇り、知識・経験豊富なスタッフがお客様の現場に合わせた最適な現場環境ソリューションを提供致します。 近年持続可能な未来のために様々な企業が取り組むS D G s。イマギレはリデュース・リユースによる循環型社会の形成によって環境負荷の低減を実現するレンタルビジネスを通じて、豊かで明るい未来の実現を目指します。	
鴻池組	D-84	プロテックエンジニアリング	D-85	フジブレコン	D-86
Reライニング工法、Kcal、四足歩行ロボット 心 ほか		自然災害対策技術の革新で社会に貢献するメーカー		生コンを使わない一体型自由勾配側溝・防草コンクリートマット	
トンネルを供用しながら覆工コンクリートのリニューアルが可能な「Reライニング工法」、排ガスC O ₂ を資源に変えるカーボンリサイクル技術の「CCU材料 Kcal（ケイカル）」、現場の負担を軽減するために開発・導入を進めている「四足歩行ロボット KOCOORO/心」		プロテックエンジニアリングは雪崩・落石・崩壊土砂・土石流災害に効果的な「防護工」や、災害の発生を未然に塞ぐ「予防工」など、人命や財産を自然災害から守るためのソリューションを数多く開発しているメーカーです。 開発から営業、設計、製造、施工までを行う一貫生産体制を整え、国土や人々の生活を守る製品を生み出し、日本全国に数千箇所の施工実績をもっております。 弊社には近年増えつつあるゲリラ豪雨による土石流に対応した防護柵アーバンガードという製品がございます。こちらは一般財団法人防砂・地すべり技術センターから、「建設技術審査証明」を取得しており様々な現場で人々の暮らしを守っております。		・NETIS登録製品 スリットタイプの一体型自由勾配側溝で現場の勾配でプレキャストのインバートを作成しスリット側溝本体と工場で一体化し函渠型側溝を施工する手間で自由勾配側溝が施工できます。横断タイプもあり現場での生コンの手配とインバートの均す作業がなく、休日・夜間・乗入など即日解放にもお役立ちできると思います。 ・防草コンクリートマット 防草用不織布シートとコンクリートチップを一体化させた雑草対策製品です。15年以上の実績があります。	
丸建リース	D-87	大林組	D-88	パシフィックコンサルタンツ	D-89
「タフのチカラ」で地下空間施工の脱炭素化に貢献します!!		建設業の未来を支える、大林組の自動化施工技術		防災D Xで持続可能な都市づくりを支援	
■マルケンタフ工法：タフ4とタフ7のハイブリッドで、切梁スパンを拡大し、広い地下作業空間の創出を実現！ ■マルケンタフデッキ：長さ4m及び5mの長尺覆工板により、広い開口部を確保でき、地下工事の作業効率の向上に大貢献！ ■タフな圧入式パイポ併用杭打機（JPM）：強力な圧入力（410kN）と高周波パイロで、無排土で安全且つ迅速な施工を可能にし環境に配慮した工事を実現！ ■新シリーズ【プレリース】：最大スパン15mの高強度栈橋杭（タフ1） 土留支保工のフラット化（切梁交差部フラット材）…支保工下部空間の有効活用を実現！などなどアイデア商品を準備しております。ぜひ当社ブースへお立ち寄り下さい!!		大林組は、建設業界が直面する就労人口の減少や働き方改革といった課題に対し、D Xによる生産性向上を目指した自動化施工技術の開発に取り組んでいます。 ダム・土工事・シールド・トンネルなど、幅広い工種に対応した最新技術を展示。人手不足を補い、現場の安全性・効率性を高める革新的なソリューションを、ぜひ本ブースでご体感ください！		パシフィックコンサルタンツは、「未来をプロデュースする」というビジョンのもと、社会インフラの企画から設計、維持管理までを担い、技術と創造力で新しい価値を生み出しています。都市再生、防災、交通、環境、国際協力など、幅広い分野で地域とともに未来のまちづくりに取り組んできました。 本展示会では、AIによる異常検知や意思決定支援を行う「防災D X」のほか、自然災害再現モデルをはじめとした模型展示、スマートインフラ実現に向けた取り組みなど、私たちの多彩な挑戦をご紹介します。是非お立ち寄りください。	
地盤注入開発機構	D-90	建設物価調査会	D-91	日本建設情報総合センター	D-92
液状化対策工・高強度地盤強化・低炭素注入工法・D X注入技術		C A D部品データ提供サイト「i-部品G e t」		D X時代の建設マネジメント	
地盤注入開発機構は、薬液注入分野の5協会を統合して2003年6月に設立され、地盤改良における薬液注入の技術開発に努めております。 長期耐久性を主要テーマとして「産学共同研究」により「環境・耐久・浸透」をテーマとした「現場の土そのものを素材とする薬液注入工法」の技術革新を進めてきました。その研究成果は多様な地盤条件に対応する統合地盤注入工法、液状化対策工、高強度地盤強化、低炭素注入工法、D X注入技術へと進んでおります。 施工実績として、恒久グラウトは2,000件以上（注入量10億ℓ以上）、シリカゾルグラトは国内50,000件以上、海外100件以上の実績を有しております。		「i-部品Get」は、土木関連のC A D部品データを提供するWebサイトです。「コンクリート製品」「道路用製品」「橋梁関連製品」を中心に、メーカー各社の2・3次元C A Dデータ（DWG、D X F、R F A、I F Cに対応）を約350社1200製品公開しており、データをダウンロードし図面・モデル作成の効率化等にご活用いただけます。また、製品紹介なども閲覧できます。 メーカー各社様のご協賛で運営しており、会員登録していただくだけで、無料でご利用いただけます。		日本建設情報総合センター（J A C I C）では、コリンズ・テクリス、積算システム、人材情報サービス（P P I）、電子入札コアシステムなど、公共調達に対応したシステムやデータを提供しています。建設副産物・発生土情報交換システムは、2025年5月に「コプリス・プラス」として全面的にリニューアルしました。 また、現場の作業を効率化するJ A C I Cルームなどの情報システムの提供、D X推進のための調査研究等も行っています。 「J A C I Cルーム」は、インターネットを介して、登録されたメンバーで情報を共有できるサービスで、データ、画像・映像など様々な情報を一元化し、情報の可視化、業務マネジメントの効率化を支援します。	
扶桑鋼管	D-93	日本国土開発	D-94	協同組合Masters ジョテツ工法研究会	D-95
その課題、パイプ1本で軽くする。		回転式破碎混合工法とハイブリッドエポキシ樹脂		その鋼矢板残置するんですか？勿体ない！	
扶桑鋼管の最大の強みは、豊富な在庫と高度な加工技術を自社で一貫して提供できる「ワンストップ対応」にあります。常時1万tを超える鋼管在庫を有し、お客様の求める多種多様な鋼管を迅速に供給。さらに、切断からN C旋盤、3次元レーザー加工機といった最新鋭の設備を駆使し、高精度な部材加工までを自社拠点で完結させます。これにより、お客様の発注の手間を削減し、リードタイムの短縮とコスト削減を実現できます。 また、海外拠点を活用する事でグローバルな素材・部品調達も可能にします。		回転式破碎混合工法は、対応困難な高含水比粘性土や軟岩等の建設発生土も均一に攪拌混合が可能な土砂改良技術(建設発生土リサイクル技術)です。現地発生土を利用した築堤土や盛土材製造に多く採用、延べ1,300万㎡の改良実績を有します。また、これまでの取組みが評価され「令和3年度3R推進功労者等表彰」にて国土交通大臣賞を受賞しました。 ハイブリッドエポキシ樹脂（NETIS登録番号：H K -170005-VR）は、鉄筋コンクリート構造物の様々な補修工法に塩害対策として適用できる補修材料です。エポキシ樹脂に塩分吸着材を添加したもので、鉄筋腐食の原因となる塩化物イオンの吸着効果と鉄筋腐食抑制効果を併せ持ちます。		土留め部材の仮設鋼矢板やH鋼親杭残置は既に過去の話。鋼矢板を安心して引き抜け、リユースができる特許工法のジオテツ工法。従来工法（薬液注入工法）と比較し施工性や品質で優り、効率的な施工、管理が可能です。 工事実績も徐々に増加し現時点では1,000件を超えています。高規格道路や鉄道に近接した土留杭の引抜において各管理者の基準（許容沈下量等）を満たした施工が可能となります。 また、都市部のビル等の民間建物への近接施工においても、周辺地盤の沈下を抑制し安全に引き抜けます。さらに、貴重な有限資源である鋼材を無駄にすることなく資材として有効なリユースが可能となります。	
国際航業	D-96	西武建設	D-96	ミラテドローン	D-96
高い技術力と革新性で、建設D Xの実現を強力にサポート		建築物壁面の接触作業を可能とする【壁面接触作業ドローン】		DaaSが建設現場を自動化。生産性と安全性を飛躍的に向上	
国際航業株式会社は、地理空間情報技術のリーディングカンパニーとして、最先端の計測技術と多様なコンサルティング力を有し、建設業界において新たな価値を創出しています。 ドローン等による高精度な3次元点群データの取得と、3次元空間解析を活用することで、現場の状況を迅速に可視化・最適化。計画立案から施工管理、災害対応まで、現場業務の効率化を強力に支援します。 また、これまでに100以上の自治体で「PLATEAU」の3 D都市モデル整備に携わった実績を活かし、建設分野における3 D都市モデルの高度な利活用を推進しています。 ぜひブースにお立ち寄りいただき、国際航業の先進技術をご体感ください。		建築物の高経年化と建設業従事者の減少で、効率かつ安全な維持保全技術が求められる中、当社は東京理科大学・建築研究所と合同で「高所における建築物の壁面点検・調査を効率かつ省力化する目的」として、壁面に接触し作業するドローンの研究・開発を実施。進捗として、2023年度は「ドリル法によるコンクリート壁面の中性化測定を可能」とし、2024年度は、「測定等により微破壊・破壊した壁面の復旧を可能」とした。 本研究の効果で、「効率化」「省力化」「コスト削減」「安全性」に貢献し、建築物の「長寿命化」による良好な資産・ストック形成を図る。本研究は国土交通省の「S B I R建設技術研究開発助成制度」に採択されている。		建設現場の生産性と安全性を飛躍的に向上させる「切り札」として、ドローン自動運用サービス（DaaS）をご提案します。 現場にドローン自動基地「DroneDock」を設置するだけで、離着陸から充電、データ転送までが全自動。高度なデータ解析技術と連携し、これまで人手を要した測量や日々の進捗管理、危険箇所の安全パトロールといった業務の効率化を加速いたします。	

ともに創る建設の未来。



日野コンピューターシステム D-97 建設計画に活きるトラックのプローブデータ 日野自動車製トラック・バスに標準搭載された通信機から取得する「日野コネクティッドデータ」は、全国の道路を走行する車両から得られる高精度なプローブデータです。建設コンサルタントの皆様にとって、道路整備や災害復旧、脱炭素施策などの技術提案の説得力強化にお役立ていただけます。 展示では、「水素ステーションの最適立地分析」「C O₂ 排出量の可視化」「バイパス開通による交通流変化」「スタック（雪による立ち往生）検知」「能登地震後の物流変化」など、実際の活用事例を紹介します。		東洋建設 D-98 カーボンニュートラル社会の実現と港湾の防災・減災に向けて 東洋建設は、創業以来一貫して建設事業を通じて様々な社会課題の解決に取り組んでいます。カーボンニュートラル社会の実現に向け、洋上風力発電事業への参画を目的にケープル敷設船を新造し、技術開発や人材育成に力を注いでいます。また、長年培ってきた海上土木の技術力を最大限に発揮し、港湾の防災DX技術や津波防災・減災技術などを駆使し、社会貢献に努めてまいります。		文化財石垣・石積擁壁補強技術協会 D-99 石積擁壁耐震補強対策工法：パットレス型補強アンカー工法 文化的・学術的価値の高い伝統的な石垣や石積擁壁、もしくは老朽化した宅地石積擁壁（空石積み）は、昨年多発するゲリラ豪雨や線状降水帯による長雨の影響や、大規模地震の発生確率が高まっていることから、今後崩壊する可能性が危惧されている。また、石垣や石積擁壁の上部には建造物が隣接する場合が多く、補強により敷地境界線の越境や建造物の基礎に影響を与える懸念が指摘されている。 本工法は、水平補強材と柱状構造物を組み合わせて、補強効果を高めることにより、石垣や石積擁壁の表面から短い範囲で補強を完結させることができる。同時に石垣や石積擁壁の景観を損なわず、耐震補強することができる特長を備えている。	
新光重機 D-100 法転マスター 独自開発 N E T I S ・特許登録済み商品 3DMGターボ法バケ転圧管理システムは、振動法面バケットの締固め時間を色分け表示し、法面部の締固め状況を管理するシステム。法面施工をICTでトータル管理、法面固めの品質向上に貢献致します。 遠隔操作・自動運転システム 遠隔操作・自動運転システムは、メーカー・年式問わず市場の9割の建設機械に対応しております。搭乗操作・遠隔操作をシームレスに切り替え可能。 遠隔操作距離も、日本→ブラジル間でも遅延を感じない遠隔操作を実現しております。又、通信途絶時には自動停止するなど現場に即した安全機能を備えております。		韓水ナテック D-101 「Polymer Cool Mix Asphalt」を開発 (株)韓水ナテックは、改質アスファルトおよび添加剤、道路補修材を開発・製造する韓国の企業です。 P C M A (Polymer Cool Mix Asphalt) は、C O₂ 排出量を従来に比べて最大50%削減し、かつ改質アスファルトの耐流動性を併せ持つ、エコフレンドリーな舗装材料です（P G 76-22）。 また、「低騒音舗装技術」や「スピードロバケット」・「マジックポケット」など、用途に応じた多数の補修材を展開しています。 (株)韓水ナテックは世紀東急工業㈱と企業提携しており、脱炭素と持続可能な道路インフラの実現に向け、革新的なソリューションを提供しています。		国土交通省 関東地方整備局 D-102 関東地方整備局の現場の取り組みを発信！ 荒川下流河川事務所／荒川上流河川事務所／荒川調節池工事事務所／二瀬ダム管理所／関東道路メンテナンスセンター／関東技術事務所 荒川水系の4事務所より荒川における流域治水の取り組みとそれらを推進するDXの取り組み、関東道路メンテナンスセンターより道路メンテナンスのDX推進や自治体支援の取り組みを紹介します。 また、関東技術事務所より建設技術展示館の出張DXパークとして、ラジコンを用いた遠隔操作疑似体験やタブレットを用いたLiDAR体験を行います。	
伊藤製鐵所 C-1 生産性向上に寄与する機械式鉄筋継手・機械式鉄筋定着筋 電気炉で鉄筋を製造・販売する会社です。生産性向上、および温室効果ガス排出削減に寄与する製品を紹介します。 E P ジョイント：ねじ節の鉄筋同士をカブラーで接合する機械式鉄筋継手工法。カブラーを用いることで、従来のガス圧接継手のような施工手間がなくなり、流量や天候に左右されないため約40%の工期短縮を実現します。 フリップバー：せん断補強鉄筋や中間帯鉄筋のフックの代替として、定着性能を有する円形定着板を摩擦接合した機械式鉄筋定着筋で、鉄筋使用量の削減や施工性向上でトータルコストダウンが可能です。新形状の機械式鉄筋定着筋を開発中です。		タグチ工業 C-2 未来のインフラを支える、確かな技術と信頼の実績 今回の展示会では、これまで当社が培ってきた技術に、革新的なアイデアを融合させた新製品を中心に展示いたします。 当社では1000m以下のトンネルでも導入することができる連続ベルトコンベヤシステム「SCBC (Short Continuous Belt Conveyor) 」や、100tもの重量物を積載することができる資材運搬設備「インクライン」・「ガイドワイヤーリフト」など、安全性が高く、環境に配慮した製品を取り扱っております。 ブース内に当社の設備を再現したジオラマを展示しているため、実際の現場をイメージしていただける内容となっております。 ぜひブースにお越しいただき、当社製品をご体感ください。		エスイー C-3 SEE E グラウンドアンカー工法 【概要】SEE E グラウンドアンカー工法は、「頭部定着具の耐震性」と「緊張力調整機能」が確認されたアンカー工法です。 【主な特長】①頭部定着具の耐震性：衝撃荷重、繰返し荷重に対して定着機能を維持できる②緊張力調整の性能：緊張力の変動に対して適切な調整ができる③材料性能による耐久性：ポリエチレン被覆および防錆油により防食性が高い④構造性能による耐久性：全長にわたり二重防食構造のため耐久性が高い	
NTジオテックス C-4 地上型3Dレーザースキャナ／LiDAR SLAM／SfM製品 近年、建設業界においても人手不足に伴い、DX化・自動化・システム化等の業務効率化のニーズがますます高まって来ております。 今回の展示会では「点群計測とその活用」にテーマを絞り、近年特に需要が高まっており、ますます地上型3DレーザースキャナやLiDAR SLAM、SfMに関するソリューションをご紹介する予定です。 弊社は株式会社ニコン・トリプルの特約販社として、3D計測、BIM／CIM、インフラメンテナンス等の業務に対応でき、時代のニーズに合ったソリューションのご提案からアフターフォローまでをメーカーに代わって一貫して行うことにより、お客様にご満足いただける企業を目指してまいります。		日本インシーク C-5 点群データによる効率的なインフラマネジメントの実現 点群データは、3次元で『見る』時代から『測る』『知る』『使う』時代になっています。今までは目的ごとに2次元の測量を行っていましたが、インフラマネジメントのあらゆるフェーズで行う測量を3次元測量にアップグレードし、取得した点群データを有効活用することでインフラマネジメントの最適化を図ることができます。さらに、点群データにBIM／CIMモデルを合成することで、あらゆる関係者との合意形成の円滑化を図ることができるだけでなく、人間の目では見えない地下空間や未来までを3次元で『見える化』することができます。		東亜建設工業 C-6 私たちの今が、社会の未来を創る 当社は1908年（明治41年）の創業以来、鶴見・川崎臨海工業地帯の造成に始まり、本州四国連絡橋・関西国際空港・中部国際空港・東京国際空港（羽田空港）・東京湾横断道路（アクアライン）など、人々の生活や産業を支える多くの大規模プロジェクトに携わり、堅実な経営と高い技術力で海上土木事業のバイオニアとして走り続けてきました。 「高い技術をもって、社業の発展を図り、健全な経営により社会的責任を果たす」という社是のもと、「人」と「技術」を礎にして、社会インフラの整備に貢献し、時代のニーズにあわせて領域の拡大を続けながら、未来を創造する企業を目指しています。	
小島組 C-7 世界トップレベルの技術力をもつグラブ浚渫船で挑戦しています！ 小島組は大正8年に創業し、今年で106周年を迎えます。当社は、浚渫を始めとする港湾土木事業に広く関わっています。「浚渫（しゅんせつ）」とは、港湾の海底にある土砂を取り除き航路を作る「海の道路工事、とも言える仕事。世界最大のグラブ浚渫船「五祥」を始め14隻の大型作業船を所有し、国内外の工事に参画しています。日本の貿易は、0.5%が航空貨物、99.5%が海上貨物であるため、近年、日本の国際戦略港湾や世界各地の港湾では大型船が頻りに航行できるよう、浚渫により航路を増深・拡張することが求められており浚渫の重要性が増しています。世界トップレベルの浚渫技術で、世界中の港を活性化することが私たちの挑戦です。		中央開発 C-8 地質調査業のDXを目指す「弊社の地質DX」の取り組み 地質調査業こそDXが必要です。地質DXにより、陸域・水域の調査を刷新し、新たな手法で地形図を作成して解釈の高度化を実現します。地盤調査・地盤解析・新技術DXを強みに、地質調査業の生産性向上を図っていきます。われわれは地質調査業のDXに力点を置きつつ、更には設計・施工・維持管理へのデータの橋渡しを行っていきます。昨今の水災害・土砂災害の激甚化に備えて、各種モニタリングシステムを設置し、防災に働きかけています。土中の傾斜・微動・振動・比抵抗の計測により、地盤構造や自然斜面をモニタリングする技術は、弊社独自開発した技術です。今後も土と水に関する技術を武器に日本の防災の発展に貢献していきます。		日本認証 C-9 日本認証 建設現場の安全を支える人づくりのための安全マネジメント資格 職場のウェルビーイング向上には「人づくり、が欠かせません。安全確保を「守らなければならない義務」から「働く人を守る価値」へと転換しましょう。 建設セーフティオフィサ（SO-C）資格認証制度は、経営層・管理者層・工事現場の指揮監督者層を対象に、安全に関する知識と理解を認証する人材育成制度です。 災害を未然に防ぐには、設計から施工まで一貫したリスクマネジメントが不可欠です。リスクを正しく理解し、設備を適切に運用できる人材を育てることで、安全・安心な職場環境を実現し、ウェルビーイングの向上に貢献します。	
地盤凍結工法協会／精研 C-10 地盤凍結工法 地盤凍結工法は、地盤中に所定の間隔でパイプ（凍結管）を埋設し、凍結管内に冷凍機で冷却したブラインを循環させることにより周囲の間隙水を年輪状に凍結させ耐力壁あるいは止水壁を作る地盤改良工法です。地盤中に凍結管を設置できれば、土質、深度、方向、支障物に関係なく地盤改良が可能です。 地盤凍結工法専門エンジニア冷凍機では、自然冷媒を使用することにより地球温暖化対策へ寄与しています。高い能力とCOP（エネルギー・消費効率）を保有し、省エネ効果が高く、環境に優れた冷凍機となります。 また、地盤凍結工法専門の技術職員が現場に常駐することにより、安全で確実な凍土の維持管理が可能です。		nat C-11B iPadやiPhoneで簡単3Dスキャン 現場DXを加速する「iScanat」 nat株式会社は建設現場のDX推進を目的に、iPadやiPhoneで簡単に現場を3Dスキャンできる自社開発ソリューション「Scanat」を提供しています。 正確な3Dデータクラウドで共有し、発注者・設計者・施工者間の情報連携を効率化。出来形管理や維持管理の業務効率を向上させ、国土交通省モデル事業での採用実績もあります。さらに、寿建設社と共同開発した土木向けソリューション「Scanat-DJ」により、インフラ分野での活用も広がり、建設業界全体の働き方改革に貢献しています。		オリエンタルコンサルタンツホールディングス C-12 DX技術を活用したインフラの調査・設計・維持管理システム OCHDグループ会社が取り組む「DX技術を活用したインフラの調査・設計・維持管理システム」をご紹介します。出張技術：ATK・SAMS、BIM／CIM、点検ドローン、都市モデル、SOCOCA、ぶらり、スマート防災（動くハザードマップ）、Sri M(A I 技術を活用した河川管理)、3D都市モデル&点群データの各種活用。 出展会社：アサノ大成基礎エンジニアリング、エイテック、リサーチ アンド ソリューション、オリエンタルコンサルタンツ	
飛島ホールディングス C-13 Hydro-Jet RD工法／潜水技術／水中・水陸兩用バックホウ他 本展示では、革新的技術を飛島ホールディングスグループの3社が共同展示いたします。飛島建設からは、橋梁の通行止め期間を大幅短縮する「Hydro-Jet RD工法」、供用中トンネルを安全にリニューアルする覆工再生技術、そして最新のMR・AR技術で騒音源を立体的に可視化する「OTOMIRU」をご紹介します。 テクアノーツは、高度な潜水管理システムによる総合潜水作業技術、切替え作業時間を120分から5分へ劇的短縮する可変式浮橋橋、エア制御による効率的な浮沈式通船ゲートを展開します。 極東建設では、水深50mまで対応する水中バックホウと多彩なアタッチメントによる水中作業技術を実演映像でご覧いただけます。 共同出展者：飛島建設、テクアノーツ、極東建設		リフリート工業会 C-14 インフラ構造物の長寿命化に向けた維持管理サイクル 太平洋セメントグループの「インフラ構造物の長寿命化」に向けた取り組み。老朽化した構造物の「調査・診断から補修材料・補修工法の提案・実施、モニタリング機器類の設置まで」と維持管理サイクルを実現する数々の取り組みをご紹介します。 共同出展者：太平洋マテリアル、太平洋セメント、太平洋コンサルタント		ワイビーエム C-15 地盤改良機の進化版ここに誕生！ 柱状改良工事の施工機G Iシリーズに、新たに「G I-180C-1」が加わりました。 従来機のサイズ感をそのままにトルクの増強を図り余裕を持った施工を提供すべく開発した、コンパクトで高トルクな地盤改良機です。トルクの増強によって硬質地盤においてもロッド回転数を維持することができるため、大口径に対応可能です。また引抜力についても強化した結果、施工サイクルタイムが短縮でき、生産性が顕著的に向上しました。 「施工管理装置」と「施工支援システム」を標準で装備するほか、「杭芯位置誘導システムY-Navi」などをオプションで準備しており、ICT地盤改良工への対応が可能です。	
東京建設コンサルタント C-16 時代の先端に立ち高度な技術サービスを通じて社会資本整備に貢献 1.「極端河川施設機側操作用向け情報共有システム」：スマートフォンを活用し、河川施設情報の一元的な管理業務の高度化、効率化を図る。 2.「無動力カメラIoT監視システム」：無動力（フリップ）ゲートの傾斜を観測するセンサーで取得したデータをIoT通信サービスによりクラウド等に収集する。ゲートの傾斜度から出水時などのゲートの開閉状況を管理者にWEB上で提供することで、ゲート管理の効率化を図る。 3.「IoTクラウドサービス、わかるくん」：独自に観測した遠隔地の水文・水質・気象等のデータをリアルタイムに収集し、クラウドを通じてPC・スマホ・タブレット等で管理者や関係者などに提供する。水位・出水状況等をリアルタイムに知ること避難・防災に役立たせる。		清水建設 C-17 次世代型トンネル構築システム「シミズ・スマート・トンネル」 「シミズ・スマート・トンネル」は、建設現場の生産性向上や働き方改革を目的とするi-Construction2.0に対応した、トンネル現場のオートメーション化技術です。現場の施工条件に応じた要素技術を選定して統合的に活用することで生産性を向上し、省人化・省力化と安全で品質の高い施工の両立を図ります。ブースでは、山岳トンネル工事におけるオートメーション化技術をわかりやすく紹介します。		日本道路 C-17 日本道路の地球にやさしい工法 大気中における二酸化炭素の濃度が年々増加し、地球温暖化が深刻化しています。しかし、大型トラックや航空機、工場などから出る二酸化炭素の「排出量」に関して、削減の取り組みが行われていますが、限界があります。弊社は、二酸化炭素の「吸収量」に着目し、大気中の炭素が吸収された「未利用バイオマス（木・樹皮・竹）」を原材料とした木質成型ブロック「モクロック」、さらに未利用バイオマス、を炭化した「バイオ炭」。をアスファルト混合物の砂の代替で添加した『バイオ炭アスコン』を、2050年のカーボンニュートラル達成にむけて有効な炭素低減技術としてご紹介致します。	
レフィクシア C-18 高精度GPS端末【LRTK】 スマホがcm精度の万能測量機に！スマホやタブレットに装着するだけで、単点・連続測位、3D点群スキャン、土量計算、座標誘導など多彩な機能をスマホ1台で完結できます。 撮影時には位置・方位を高精度記録し、クラウド管理・共有が可能。みちびきC L A S対応で電波が届かない場所でも測位可能です。 AR技術と組み合わせ、施工予定の構造物を正確に投影し、位置合わせの手間を省きます。 土木・建設、測量、インフラ管理など幅広い分野で活用でき、現場の生産性向上と効率化に貢献する次世代測位デバイスです。		早川ゴム C-19 雑草対策・省人化・IoT各分野のNETIS登録製品を出展 亜鉛イオン型の雑草対策製品、草ゼロプレートは境界ブロックに貼り付けるだけの簡単施工で境界ブロックと舗装の隙間から生えてくる雑草対策に有効です。亜鉛イオンを含有した新製品草ゼロシートを新たに開発、境界ブロック目地部の雑草を中心に新設・既設問わず雑草対策が可能となりました。 スパンシール誘発目地材が固定治具で再度NETIS登録されました。固定治具を用いたワンタッチ施工により、省力化が可能となり経済性および施工性が向上します。 潤トワシステムは、コンクリート養生の管理を養生マット含水率によって実施、自動測定＋自動散水および停止に変えたことによって、省人化・省力化・管理まで行えるシステムです。		三信建設工業 C-20 V-JET工法 超高圧噴射攪拌工法で圧縮空気を沿わせてセメント系硬化材の超高圧噴射により地盤を切削し、標準直径1.5～6.0mの円柱状の改良体を高速で造成します。 段差対向噴射機構を持つ特殊専用モニターを使用することにより、高い噴射効率が得られました。これにより、従来工法を上回る施工の高速化と改良体の大型化を実現しました。 さらに、回転速度を制御することにより、扇形を組み合わせた形状（多扇形）の改良体を構築できるマルチファン工法も実用化されました。	
五洋建設 C-21 五洋建設の港湾DXと現場監督育成を目的とした施工管理シミュレーション C-Xross2025では現場監督を育成するための施工管理ミュレーションと、当社の港湾DXおよび海上工事で活躍するドローンを紹介します。 ①施工管理シミュレーションでは、防波堤築造工事を完成させる過程を通して、ゲーム感覚で現場監督として必要な考え方を習得できます。 ②港湾DXでは、港湾工事における特殊な条件下でも安全かつ効率的に作業を進めるためのICT技術を紹介します。 ③POV-DRは、リアルタイム船舶土量検収システムを搭載したドローンです。3D-LiDARで5秒間船舶倉内を計測すると、積載土量を直ちに算出・表示し、帳票まで自動作成する技術で、土量検収にかかる時間および人員の削減を可能にします。		奥村組 C-22 シールド現場紹介＋体験ブースおよび木造ハイブリッド建築の紹介 ①関東地方整備局（霞ヶ浦導水工事事務所）発注現場である霞ヶ浦導水石岡トンネル（第5工区）の現場紹介および進捗について紹介します。あわせて、XRを用いたシールド現場の状況体験ができます。 ②ESG／SDGsへの取り組みの一環として、CO₂削減にもつながる木造ハイブリッド構造(木造とRC造の混構造)の自社社員寮を紹介します。 ③高速道路路橋のPC床版を矩形形状の特殊スパイラル筋「Zスパイラル筋」を用いて接合する継手工法「Zスパイラル工法」を紹介します。		加藤建設 C-23 圧入ケーソン工法 加藤建設は圧入ケーソンのバイオニアとして、都市域の厳しい施工環境（狭陰地、短工期、周辺環境）に対応した分割組立型土留壁を利用した「アーバンリッジ工法」や狭陰地における基礎施工に対応し急速施工を可能とした「P C ウェル工法」、現場で構築された躯体を圧入沈設する「グリップ圧入工法」等、豊富な圧入技術を多く保有しており、地下空間No.1を目指しています。	

C-Xross 2025 Construction Xross 2025				ともに創る建設の未来。			
東急建設		C-24		ライト工業		C-26	
0へ挑み、0から挑み、環境と感動を未来へ建て続ける。				ライト工業の「ICT法面・地盤改良技術」			
PPCaボックスカルバートは、現場打ちボックスカルバートの側壁、頂版を部分的にプレキャスト部材へ置き換えた大型ボックスカルバートの構築工法です。パイプトレーサーは、モーションキャプチャカメラを用いたコンクリート打設時の品質管理を見える化するバイブレータ位置特定技術です。コンクリートの品質管理の見える化とトレーサビリティを実現します。トコミドリは、東急建設のグリーンインフラのブランドで、自然の力を活用して都市の課題を解決する“みず、と”“みどり、と、いきもの、の技術の総称です。				当社は、斜面对策工事・地盤改良工事など「特殊土木工事」のパイオニアとして、国土の防災やインフラ整備を通じて社会に大きく貢献してきました。今回、ICT技術を中心に斜面对策技術として、Automatic-Shot R、DCネット工法、ESネット工法、Robo-Shotを、地盤改良技術としてACSシステム、CCSクラウド、ICT-JETなど多数ご紹介致します。永年蓄積した豊富な経験と確かな技術のもと、様々な社会的課題の解決を通じて社会に貢献していくことを変わらない使命として認識し、新技術の開発や新しい事業領域へ挑戦し、新たな価値創造とこれからも人々が安心できる強く豊かな国土形成に尽力してまいります。			
日本物理探鑑		C-27		日本工営		C-29	
地中レーダ探査や磁気探査を中心に様々な探査手法をご紹介				未来の社会インフラを支える、日本工営のソリューション			
社会インフラの弱点を抽出する様々な地中探査をご紹介します。昨今ではインフラの老朽化に起因した地盤の陥没などのニュースに触れることが多くなりました。私たちが日頃行っている地中探査の様々な手法を用いて、このような課題への解決策を見つけたと考えております。今回の展示では、地中レーダ探査や磁気探査を中心に様々な探査手法をご紹介します。今年は出展者プレゼンテーションも予定しておりますので、いずれもお気軽にこ来場いただけますと幸いです。				日本工営は、ID&Eホールディングス体制のもと、「コンサルタント事業」「都市空間事業」「エネルギー事業」の三領域における成長戦略を推進し、時代とともに変化するグローバルな社会課題に対し、その解決のために変化を恐れず成長し続けるコンサルティング&エンジニアリング企業集団として、持続可能な社会の実現に貢献していきます。建設技術展2025では、防災マネジメント支援システム「Stage（ステージ）」、道路等維持管理システム「Manesus（マネサス）」、演場創生適地提案システム「MobaDAS（モバダス）」地下水資源のコンサルティングサービス、人流データ解析サービス「N-LOUPE（エヌルーベ）」、衛星サービス等、未来の社会基盤を支える先端技術の展示、紹介を行います。			
日本工営都市空間		C-29		ワキタグループ		C-31	
都市空間が創る未来のまちづくり				建設DXソリューション			
日本工営都市空間は、ID&Eホールディングスの中で「土木×建築」により都市空間領域の課題改善を目指しています。その中で以下の技術を紹介します。 ①スマートシティ実現に向けた3D都市モデルの活用 ②ランドスケープ分野の取組紹介 ③土地区画整理事業の技術を活用した都市課題への対応 ④建築事業における脱炭素（省エネ）技術。				・ワキタグループの自動施工、遠隔施工技術（シミュレーター技術を用いた後付け可能な浚渫船自律運転システム、建設機械用遠隔操縦装置、AIを活用した杭支保層到達確認システム） ・i-Construction対応「ICT地盤改良システム ・手で持って歩くだけで測量できる「LiDAR SLAM「RS10」			
パスコ		C-32		フジタ		C-34	
地球をはかり、未来を創る～人と自然の共生にむけて～				インフラ整備や防災・減災などをはじめとした技術をご紹介			
パスコは、「遠隔の視点（Remote Sensing）」と、「近接の視点（Onsite Sensing）」から地球上のあらゆる事象を捉え、さらに、AI（人工知能）やIoT、GIS（地理情報システム）、画像処理などを活用した「分析・解析技術」を加えた3つの要素を融合することで、事業を展開しています。 現実の世界をコンピュータ上に再現する技術と、解析・評価・分析する技術によって、過去から現在、そして未来を予測して、国土や環境の管理・保全、インフラの維持管理、災害その他のリスク管理や対策など、社会課題の解決に向けた空間情報サービスを提供しています。				人々の暮らしを支えるインフラの構築や多発する自然災害に対応した防災・減災など、土木関連工事は社会を支える数多くの使命を担っています。それらに迅速、的確に対応するため、当社ではロボットやAI（人工知能）など、さまざまな観点から技術開発を進めています。また、造成などの大規模現場でも効率的に工事が行えるよう、ICT、IoT、ドローンなどを組み合わせた技術も積極的に導入しております。当社ブースは、それらの技術・ソリューションをパネルや実物展示、映像などにて、わかりやすくご来場の皆さまにご紹介いたします。			
不動産トラ		C-35		ピーエス・コンストラクション		C-37	
『地盤改良』×『土木技術』×『消波ブロック』＝不動産トラ				コンクリート構造物に関する補修・補強技術を多数展示			
『地盤改良技術』不動産トラは、世界で初めてサンドコンパクションバイブル工法の開発に成功して以来、地盤のエキスパートとして豊富な施工技術・施工実績を誇ります。 『土木技術・土壌汚染対策』不動産トラは、陸上土木分野、海洋土木分野における豊富な技術で社会基盤整備に貢献しています。また、土壌汚染対策についても豊富な経験を有し、最適なソリューションを提供いたします。 『消波ブロック・環境景観技術』不動産トラは、テトラポッドを日本で初めて導入・製品化しました。現在はテトラポッドの技術をベースに改良を重ね、新型消波ブロックを多数開発しています。				当社は1952年の創立以来、プレストレストコンクリート技術の日本初のパイオニアとして、各種の建設工事に数多く実績をあげており、国内有数のPCセゾンとして競争が熾烈な建設業界の中でも独自の存在感を堅持しながら事業を展開しております。床版取替工事における版版相互の接合方法として「S-MuSSL（スマートマッスル）工法」を新たに開発、その他補修・補強技術を多数展示しております。展示ブースへ是非お立ち寄りください。			
菱建基礎		C-37		信越産業		C-39	
『緑の下の力持ち』場所打ち杭のリーディングカンパニー				新設から既設までコンクリート構造物を支える材料メーカー			
菱建基礎は、昭和35年フランスよりベトノ機を導入し、オールケーシング工法の実績を積み重ね、その技術力を磨き上げてきました。今回の出展は、主力のオールケーシング工法を軸にした応用工法、コンクリートの設計基準強度が80N・㎡まで適用可能な「アーストドル式拡底杭工法（new Ace工法）」無排土・低騒音・低振動で環境に優しく、斜杭施工を可能にした耐震性に優れた「回転杭工法（つばき杭）」、仮設土留めが不要なプレキャストPC部材による連続壁工法「H型PC杭」など日本建築センターの「評定書（工法等）」や土木研究センターの「建設技術審査証明報告書」に裏付けされた先進の技術をご紹介します。				当社は、コンクリート構造物を「新しく造る、から」維持管理、までをサポートする材料メーカーです。コンクリート型枠離型剤をはじめとした「新設構造物の製造効率と美観性を高める製品」から「老朽化した構造物の寿命を延ばすための断面修復材などの製品」までの多様な製品ラインナップで、コンクリート構造物に関する幅広い製品を提供しています。当社の製品は、CO ₂ 削減と環境負荷低減、作業者の安全といった社会的な課題にも積極的に取り組み、お客様の多様なニーズにワンストップで応えます。日本各地の拠点網を活かし、迅速かつきめ細やかなサポート体制でお客様のプロジェクトを支えています。			
矢崎総業		C-40		ゴトウコンクリート		C-42	
矢崎の商用車プローブデータ				自転車に優しい側溝			
業務用車両（トラック・バス）に搭載が義務付けられているデジタルタコグラフから運行情報を取得し、「商用車プローブデータ」としてご提供しております。 日本全国を走行するトラックやバスの運行情報を24時間・365日、高密度で蓄積し、ご希望の範囲・期間・項目を抽出・集計致します。 変わらない個体IDを活用した詳細な分析や、「O（出発地）D（到着地）統計」「走行経路」「通行量・平均通行時間」「ヒヤリハット情報」などを統計し、様々な道路交通施策の立案や効果分析にご利用いただけます。				自転車整備における通行空間の確保に有効な「自転車に優しい側溝」や、蓋の入替えだけで半永久的に壊れない耐久性を得る事ができるスリット蓋「ディンプルエフ」など、お客様のニーズに合わせて開発した自社オリジナルの道路用コンクリート製品を展示しております。			
総合資格		C-44		KTB協会／PCフレーム協会		C-46	
建築系特化型人材支援／資格取得支援サービス				防災・減災、国土強靱化に貢献するアンカー技術と法面受圧板			
「総合資格」は、全国約70拠点で建築士・施工管理等、建設系資格試験合格を支援する「総合資格学院」を運営する資格指導のプロです。特に1級建築士の合格実績は毎年日本一となります。 貴社のご要望にあわせた最良な採用・育成プランをご用意します！ 「採用」「育成」は企業によって、めざす目標や目的、社員の業務や年次など様々なあり、十社十色のプランが存在します。そこで、当社では各企業様のニーズにあわせたオリジナルのプランをご提案することで、最良な採用・育成サポートを行います。建築／建設／不動産系の資格支援予備校として、確かな実績を持つ当社だからこそ提案できる各種プランがございます。				PC鋼より線の素線1本1本を塗装する全素線塗装型PC鋼より線SCストランド）を使用した「KTB・引張型SCアンカー工法」は、シンプルな構造で削削径の細径化を実現した経済性に優れたグラウンドアンカー工法です。 そのグラウンドアンカーに使用する受圧板「PCフレーム」は、工場で製作される高品質なコンクリート製受圧板です。施工方法においては「逆巻き施工」も可能なため、従来の「現場打ち法枠工」に比べて安全性に優れ、工期の短縮が可能です。 皆様の課題解決に貢献する当協会の技術を、専門のスタッフがご紹介いたします。当協会の展示ブースにぜひお立ち寄りください。			
大洋基礎工業		C-47		首都高速道路技術センター		C-48	
TRD工法・SATコラム工法・BG工法・スーパートップ工法				点検訓練シミュレーター他			
第六回Construction Xross開催を通じて、ハード・ソフト両面での社会基盤整備に関連した技術の役割や意義を発信していくこと、発注者や建設産業のみならず幅広い層にPRしていくことを目的としていることから、当社も大会の趣旨・目的を踏まえ、自社ブランド工法の普及を目指し、今回もTRD工法・SATコラム工法・BG工法・スーパートップ工法等を出展いたします。各工法の色や優位性を分かり易く紹介させて頂きます。是非たくさんの方のご来場をお待ちしております。				当法人では、首都高の現場で培ったコア技術である鋼橋疲労対策を始めとする道路構造物の調査診断、スマートインフラマネジメントシステム(i-DR EAMs)による道路インフラのアセットマネジメントなどの最先端技術を担っています。本展示会では、現場点検員を対象に開発した、仮想空間で効率的に疲労き裂の発生部位と発生原因を学習可能とした教育システム、「点検訓練シミュレーター」を展示し、実際にその場で体験も可能です。その他、当法人にて開発した様々な技術をパネル紹介しています。			
首都高技術		C-48		国土交通省 関東地方整備局		C-43	
インフラドクター、インフラパトロール、ウェーブドクター他				関東地方整備局の取り組みを発信！ 採用情報窓口／首都圏広域地方計画推進室／防災室・災害対策マネジメント室			
首都高技術株式会社は、首都高速道路の安全と機能を支えるため、独自の技術を開発・活用しています。これらの技術は、点検の効率化・精度の向上、作業員の安全確保に貢献し、首都高速道路を含めた構造物の長寿命化と安全な利用を支えています。				関東地方整備局が取り組む事業の紹介をはじめ、新たな首都圏広域地方計画や、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による自治体支援の取り組みについて紹介します。 また、関東地方整備局に興味がある学生の方、社会人の方に向けた業務紹介、採用案内も行っておりますので、お気軽にお立ち寄りください。			
サンウェル		C-25		新潟県（Made in 新潟 新技術）		C-28	
エンジニア人材不足のお悩みをトータルサポートで解決！				Made in 新潟～新潟県がバックアップする新技術～			
サンウェルはエンジニアの派遣・紹介を軸に人材ソリューションを提供しております。日本国籍・外国籍エンジニアを年間400人以上派遣し、人気テレビ番組「がっちりマンデー!!」で紹介されたこともあって、さらに多くのお客様にご注目いただいております。建設をはじめプラント・機械・ITなど幅広い業種に太いパイプを持ち、大手のみならず中小企業のニーズにも積極的に対応。横浜本社を含め国内に9拠点を展開し、地方企業への対応も万全です。インドや米国などにも拠点があり、外国籍エンジニアの提案には量・質とも定評がございます。本展では弊社スキームをご紹介しますとともに、エンジニアの履歴書もサンプル展示いたします。				新潟県では、県内企業が開発した土木・建築分野の新技術を募集し、新潟県等が発注する工事に使用した結果を含めて広く情報提供し、新技術の普及と活用を促進しています。本展示会では、全169登録技術の中から、4技術をご紹介します。ぜひ、当ブースに足を運びください！ 【出展技術】＜老朽化した鋼矢板水路の補修工法「ストパネ工法」／（働水倉組）＜側溝上部改修工法「ネプラス工法」／高橋土建㈱＞、＜農業用水用空気弁「スマートエアバルブ」／明和工業㈱＞、＜任意深度定着型仮締切り工法「D-flip工法」／第一建設工業㈱＞ 共同出展者：新潟県、水倉組、高橋土建、明和工業、第一建設工業			
経済調査会		C-30		経済調査会		C-30	
「積算資料電子版」をリニューアル／教育・学習に「施工動画！」				「積算資料電子版」は、月刊積算資料と積算資料別冊に掲載する約50万単価をWeb上で検索、表示、抽出、保存できる価格情報データベースです。このたび、視認性・利便性を向上させたリニューアル版を2026年4月号より提供開始します。進化した「積算資料電子版」を是非お試し下さい。「施工動画！」は、土木工事等を3Dモデル動画で解説する学習コンテンツです。工事の施工手順、積算方法、施工上の留意点等をWeb上でいつでもどこでも学べるため、特に若手社員の教育教材やCPDS、CPDの自己学習教材をお探しの方、積算業務の理解を深めたい方に最適です。充実した「施工動画！」のラインナップを是非ご覧ください。			
サンコーコンサルタント		C-33		未来に繋がれ！サンコーコンサルタントのトンネルづくり			
				サンコーコンサルタントの創業は我が国の建設コンサルタント草創期の1961年。その歴史ある技術で、あらゆる場面でのコンサルティングを展開してきました。当社の出発点は「トンネル」。トンネルの設計とそれに伴う地質調査の技術サービスから始まりました。その後、全国の様々なトンネルづくりを手助けするとともに、近年ではその培われた知見と技術を活かしたトンネル点検などの維持管理サービスを展開し、「未来にわたって安全に使ってもらうトンネルをつくらう」を合言葉に、技術研鑽に努めています。今回は、そんな当社のトンネルに係る歴史と技術サービスの紹介、そして新技術を活用したトンネル点検技術伝承ツールなどををご紹介します。			
大成建設グループ		C-36		脱炭素と生産性の向上を図る、大成建設グループの最新技術			
				持続可能な社会の実現には、インフラの構築から維持管理、解体まで安全を確保しつつ脱炭素と生産性向上が求められます。大成建設は環境配慮コンクリート「T-eConcrete」や「耐硫酸コンクリート」、デジタル技術を活用した「TDigital Field」、安全性を高める「スーパーSCヘルメット」を出展します。大成ロテックは埼玉県及び福島県に建設中の新たな研究所や体感型逆走防止装置「ウェッジハンブ」を展示します。成和リニューアルワークスは「地中連続壁工法」や構造物の補修技術である「CFパネル」、「PHb工法」を紹介します。共同出展者：大成ロテック、成和リニューアルワークス			
NEXCO中日本		C-38		NEXCO中日本		C-38	
もっと安全に、もっとスムーズに				NEXCO中日本は、高速道路の建設やお客さまに安全で安心・快適な高速道路を24時間365日お届けするための維持管理を着実に行之い、日本の社会・経済を支えることを私たちの役割としています。これからも、時代とともに変化する社会のニーズを的確に捉え、ステークホルダーの皆さまの期待に応える様々な価値を提供し、当社グループの社会的使命を果たしていきます。今回の展示では、現在取り組んでいる新規路線事業やリニューアルプロジェクトの紹介、将来を見据えた新たな取り組みについてご紹介します。			
日本基礎技術		C-41		地盤改良技術と自動化施工システム 土木工事の未来を拓く技術			
				今回の展示会では、地盤改良技術と自動化施工システムをご紹介します。自動削削機（ABM10、A-RPD）は、作業効率と安全性を向上させる自動削削システムです。経験や熟練度に左右されない施工を実現し、大幅な省力化に貢献します。BG工法は、支障物除去等で再開発の現場で活躍し、狭小空間での施工にも対応しています。Eight工法は、特殊な攪拌装置で、原地盤と改良材を「8の字」のように効率的に混合攪拌し、軟弱地盤を改良する中層混合処理工法です。これらの技術が、いかに未来のインフラ整備に貢献するかをぜひ会場でご覧ください。専門スタッフが詳しくご説明いたします。			
ソーキ		C-45		計測技術と現場力で、新しい「はかる」を創造する。			
				我々ソーキは『計測技術で新しい世紀を創造したい』を原点に『技術力』と『現場力』で あたりい『はかる』にチャレンジしています。私たちソーキは、測量機器・計測機器レンタルで培ってきたノウハウから生み出したオリジナルシステムにより、ただはかるだけでなく、はかるによる未来創造を実践します。『はかる』+『レンタル』＝『ソーキ』の展示ブースへ是非お越しください。			
首都高速道路		C-48		首都高はエコセーフ舗装で車から排出されるCO ₂ を削減します。			
				高機能舗装よりも低燃費（CO ₂ 排出量削減）、低騒音、水跳ね抑制機能を有する「エコセーフ舗装」を開発し、国土技術開発賞（優秀賞）を受賞しました。また、耐震性能を有さないB/P支承を補強する技術を開発し、土木学会田中賞〔技術部門〕を受賞しました。その他、積雪や路面凍結による車両滞留を回避するため、カーボン繊維入りとの和紙を熱源としたロードヒーティングや、低価格で低弾性・低収縮なコンクリート床版上面増厚用材料「LSF舗装」を開発しました。首都高が得意とする分野や独自の技術と様々な分野の事業者の強みを「共創＝CO-CREATION」することで、より良い社会基盤の実現や新しい価値の創造を目指します。			
戸田建設		C-49		国土交通省 関東地方整備局		C-43	
社会課題を解決し建設の未来を築く最新技術を多数展示します！				関東地方整備局の取り組みを発信！ 採用情報窓口／首都圏広域地方計画推進室／防災室・災害対策マネジメント室			
土木分野からは、道路橋の床版取替技術、自律飛行ドローンによる切羽観察自動化技術、推進工法で外殻を先行施工して大断面を構築する技術、グリーンインフラに関する取り組みの一つである地下式雨水浸透貯留システムなどを紹介します。 建築分野からは、環境にやさしいコンクリート構造物解体技術、AIカメラを用いた配筋検査専用アプリ、FSCプロジェクト認証を取得したTODA BUILDINGでの北海道下川町木材を活用した事例をご紹介します。 さらに、浮体式洋上風力発電事業に関する取り組み、長尺部材の輸送シミュレーションシステム、熱中対策を目的した冷却デバイスと空調服を併用した冷却作業着などの最新技術もご紹介します。				関東地方整備局が取り組む事業の紹介をはじめ、新たな首都圏広域地方計画や、緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）による自治体支援の取り組みについて紹介します。 また、関東地方整備局に興味がある学生の方、社会人の方に向けた業務紹介、採用案内も行っておりますので、お気軽にお立ち寄りください。			